年　報

2023

（2023年4月～2024年3月）

MEITETSU HOSPITAL

名鉄病院

目 次

1 病院概要

病院長挨拶 …… 3
理念・基本方針 …… 4
施設基準 …… 6
学会認定施設 …… 7
名鉄病院の沿革 …… 8
病院組織図 …… 10
名鉄病院　委員会組織図 …… 11
中期経営計画（ビジョン）策定について …… 12
各種委員会 活動実績 …… 14

2 患者動向・統計

外来・入院実績 …… 16

3 各診療科・部門の概要

老年内科 …… 22
循環器内科 …… 23
腎臓内科 …… 24
消化器内科 …… 25
呼吸器内科 …… 26
脳神経内科 …… 27
血液内科 …… 28
内分泌・代謝内科 …… 29
小児科 …… 30
外科・消化器外科 …… 31
整形外科 …… 32
リハビリテーション科 …… 33
脳神経外科 …… 34
婦人科 …… 35
皮膚科 …… 36
泌尿器科 …… 37
女性泌尿器科・ウロギネセンター …… 38

耳鼻咽喉科 …… 39
眼科 …… 40
麻酔科・中央手術部 …… 41
放射線科 …… 42
救急部 …… 43
輸血部 …… 44
予防接種センター …… 45
内視鏡センター …… 47
健診センター …… 48
中央臨床検査部 …… 49
病理診断科 …… 50
薬剤部 …… 51
看護部 …… 52
栄養サポート室 …… 58
認知症疾患医療センター …… 59
糖尿病センター …… 60
関節鏡・スポーツ整形外科センター …… 61
透析センター …… 62
中耳サージセンター …… 63
医療支援センター …… 64
ME管理室 …… 66
安全管理室 …… 68
感染制御対策室 …… 69
研修管理室 …… 70
看護専門学校 …… 71
各部門の人員概要 …… 72

4 研究・業績

学会発表 …… 76
学会参加 …… 82
研修会・勉強会開催 …… 84
論文 …… 91
著書 …… 94
表彰 …… 95

病院長挨拶

2023年度の病院年報の発刊にあたり、院長として一言ご挨拶を申し上げます。

名鉄病院は1956年（昭和31年）に名古屋鉄道健康保険組合により設立され、現在二次救急を請け負う373床、29の診療科を持つ急性期病院です。私は2022年（令和4年）4月に院長として当院に赴任をしてまいりました。

しばらく病院の年報の発刊が途絶えていたため、昨年2022年度から新たに年報の発刊を開始し、今回は第2号ということになります。昨年の年報にも記載いたしましたが、当院では2023年（令和5年）3月に3年間の中期ビジョン ”名鉄病院 vision2023” を作成いたしました。大きな柱として4つの重点テーマを掲げています。1）魅力ある職場づくりと人材の育成・確保、2）ブランド戦略と地域社会への貢献、3）良質な医療の提供と医療連携強化、4）持続可能な経営基盤づくり、です。それぞれの重点テーマの下に複数の課題と年次計画が挙がっています。現在、この計画に沿って各部署で改革に取り組んでおり、決して計画倒れにならないよう着実に実装していくことが重要だと肝に銘じています。

2023年度は本格的なポスト・コロナ時代に突入し、当院においても稼働率の低下や、医療職の辞職の増加など、いくつかの困難もありましたが、医師をはじめとする病院職員の働き方改革、看護部の業務改善、看護提供方式の変更、紹介受診重点医療機関としての紹介、逆紹介率の向上、医療支援室の構造改革、断らない救急医療の復活など、多くの取り組みを行いました。なお、不十分ではありますが、今後も名鉄病院の使命である医療を通じた地域貢献、さらには名鉄病院のスタッフにとっての働き甲斐のある職場づくりを進めたいと思います。

最後になりますが、名古屋鉄道を核とする名鉄グループは、地域の皆さまの生活に密接に結びつく企業集団です。名鉄病院もその一員として、良質な医療提供を通じて地域への貢献を推進してまいります。今後とも、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

2024年10月1日

名鉄病院長　葛谷 雅文

理念・基本方針

理　念

名鉄病院は医療倫理を守り良質な医療を提供いたします

キャッチフレーズ

人に寄りそう　命と向き合う

基本方針

1. 私たちは患者さんの「その人らしさ」を尊重した患者さん中心の医療を行います。
2. 私たちは患者さんへ十分な説明を行い、患者さんの納得を重視した医療を提供します。
3. 私たちは医学的根拠に基づいた安全な医療に努めます。
4. 私たちは地域との連携を充実し、きめ細かい医療を行います。
5. 私たちは職員の人材育成に努め、医療関係者の教育研修に関する病院としての役割を果たします。
6. 私たちは健全な病院経営に努めます。

患者さんの権利と責務

1. 患者さんは個人の尊厳が守られ、良質な医療を受けることができます。
2. 患者さんまたはご家族（代弁者の方）は、適切な医療情報の提供を受け、医療者との十分な話し合いのうえ、ご自分の納得できる医療・ケアを選択できます。
3. 患者さんは他の医療機関へセカンドオピニオンを求めたり、他の医療機関での治療を選択したりすることができます。
4. 患者さんはご自分の医療上の内容・情報を知ることができます。
5. 患者さんの個人情報は保護されます。
6. 患者さんには良質な医療を受けるために、病院の規則を守り、医師及び医療従事者に協力し、自ら医療に参加していただきます。

こども患者さんの権利

1. あなたは、いつもひとりの人として大切にされます。
2. あなたは、病院でもできるかぎり家族とすごすことができます。
3. あなたは、病気についてわかりやすく説明を受けることができ、自分の思いや考えを家族や病院のひとに伝えることができます。
4. あなたは、あなたにとっていちばんよいと思われる治療を受けることができます。
5. あなたは、入院していても学んだり、遊んだりすることができます。
6. あなたは、あなたが知られたくないことがあれば守られます。

施設基準

主な施設基準

●入院料

急性期一般入院料1
ハイケアユニット入院医療管理料1
小児入院医療管理料3
地域包括ケア病棟入院料2
看護職員夜間16対1配置加算1
25対1急性期看護補助体制加算

●安全・感染

医療安全対策加算1
感染対策向上加算1及び指導強化加算

●救急

救急医療管理加算
夜間休日救急搬送医学管理料
院内トリアージ実施料

●地域連携・退院支援

入退院支援加算1

●リハビリ

脳血管疾患等リハビリテーション料（I）
運動器リハビリテーション料（I）
呼吸器リハビリテーション料（I）
心大血管疾患リハビリテーション料（I）
がん患者リハビリテーション料

●チーム医療

認知症ケア加算1
栄養サポートチーム加算
糖尿病透析予防指導管理料
糖尿病合併症管理料

●その他

患者サポート体制充実加算
病棟薬剤業務実施加算
医師事務作業補助体制加算1（15対1）
後発医薬品使用体制加算
看護職員処遇改善評価料

学会認定施設

各種指定

* 臨床研修指定病院
* 第二次救急医療指定病院（輪番制）
* 労災保険指定病院
* 更生医療・育成医療指定病院（肢体不自由）
* 生活保護指定医
* 結核予防法指定病院（法３４条）
* 公害医療・原爆医療指定病院
* 特定疾患・小児慢性特定疾患実施病院

名鉄病院の沿革

昭和 31年	7月	名古屋鉄道健康保険組合の経営による名鉄病院を開設 （一般75床、結核50床　計125床）
昭和 32年	4月	労災保険指定病院の指定
昭和 33年	9月	総合病院の認可
昭和 33年	12月	増改築工事（一般136床、結核89床　計225床）
昭和 35年	3月	診療に関する実施修練病院の指定
昭和 36年	9月	岐阜県益田郡下呂町に温泉利用のリハビリテーション施設として下呂分院を開設
昭和 38年	6月	増床の許可（一般250床、結核83床　計333床）
昭和 39年	8月	救急病院の指定
昭和 41年	4月	名鉄病院付属高等看護学院3年課程（現・名鉄看護専門学校）開設
昭和 43年	7月	臨床研修病院の指定
昭和 43年	8月	増改築工事（一般328床、結核44床　計372床）
昭和 44年	3月	増改築工事（一般360床、結核40床　計400床）
昭和 47年	9月	結核病棟廃止、病床の変更（一般392床）
昭和 53年	6月	増改築工事（一般354床）
昭和 58年	3月	生活保護法の医療機関の指定
昭和 61年	11月	医療事務業務のコンピューター化
平成 1年	4月	地下1階地上6階の2号館が完成（一般425床）
平成 1年	8月	増改築工事（一般438床）
平成 3年	8月	地域医療機関との病診連携を開始
平成 8年	6月	下呂分院を名鉄下呂病院へ名称変更
平成 8年	10月	予防接種センターの開設
平成 13年	4月	地下1階地上5階の3号館が完成
平成 16年	10月	地域医療連携室を設置
平成 17年	5月	病院機能評価Ver.4受審（平成19年1月認定）
平成 18年	5月	オーダリングシステム導入
平成 19年	10月	名鉄下呂病院を閉院
平成 21年	4月	DPC対象病院となる
平成 23年	11月	用途変更（一般413床）
平成 24年	6月	ウロギネセンターの開設
平成 24年	9月	外来調剤の院外化
平成 24年	11月	名古屋市認知症疾患医療センターの指定

平成 25年	4月	糖尿病センター、関節鏡・スポーツ整形外科センターの開設
平成 25年	9月	1号館仮運用のための増改築工事（一般377床）
平成 25年	11月	用途変更（一般373床）
平成 27年	3月	電子カルテシステム導入
平成 27年	9月	地下1階地上6階の新1号館が完成（一般373床）
		地域包括ケア病棟の運用開始
平成 27年	11月	HCU病棟の運用開始、内視鏡センターの開設
平成 28年	2月	卒後臨床研修評価機構（JCEP）の認定
平成 28年	10月	手術支援ロボット『ダ・ヴィンチ』の運用開始
平成 30年	11月	ウロナビ（MRI-超音波弾性融合前立腺生検装置）の運用開始
令和 1年	8月	透析センターの開設
令和 2年	3月	1-6病棟においてコロナ陽性患者受入れ開始
令和 2年	4月	中耳サージセンターの開設
令和 5年	1月	電子カルテシステム・医事システム更新
令和 6年	4月	睡眠障害センターの開設

病院組織図

2024年4月1日現在

- 病院長
  - 副院長
  - 安全管理室
  - 感染制御対策室
  - 研修管理室
  - 医療支援センター
    - 地域医療連携担当
    - 入退院支援担当
    - 医療福祉相談担当
  - 事　務　部
    - 経営企画課
      - 経営企画担当
      - 経理担当
      - 用度担当
      - 診療情報システム担当
      - 診療支援担当
    - 総　務　課
      - 総務担当
      - 人事労務担当
      - 施設担当
    - 医　事　課
      - 入院担当
      - 外来担当
      - 診療情報管理担当
  - 老年・総合内科
  - 循環器内科
  - 腎臓内科
  - 消化器内科
  - 呼吸器内科
  - 脳神経内科
  - 血液内科
  - 内分泌・代謝内科
  - 小児科
  - 外科
  - 消化器外科
  - 整形外科
  - リハビリテーション科
  - 脳神経外科
  - 婦人科
  - 皮膚科
  - 泌尿器科
  - 女性泌尿器科
  - 耳鼻咽喉科
  - 眼科
  - 麻酔科
  - 放射線科
  - 中央手術部
  - 救急部
  - 輸血部
  - 予防接種センター
  - 内視鏡センター
  - 健診センター
  - 中央臨床検査部
  - 病理診断科
  - 薬剤部
  - 看護部
    - 病　棟
    - 手術室
    - 外　来
    - 救急外来
  - 栄養サポート室
  - 認知症疾患医療センター
  - ウロギネセンター
  - 糖尿病センター
  - 関節鏡・スポーツ整形外科センター
  - 透析センター
  - 中耳サージセンター
  - 化学療法センター
  - 睡眠障害センター
  - ＭＥ管理室
  - 名古屋診療所
  - 看護専門学校

名鉄病院　委員会組織図

2024年4月1日現在

病院長

安全管理委員会

安全管理関連

セーフティーマネジャー委員会
（看護部セーフティーマネジャー部会）
（看護部患者安全委員会）

院内感染防止対策委員会
（院内感染防止対策チーム）
（看護部感染対策リンクナース会）

薬品審議会

ME管理委員会

輸血療法委員会

診療情報管理委員会
（診療情報管理委員会小委員会）

医療情報システム管理委員会

療養環境と患者サービス委員会

医療ガス安全管理委員会

医療廃棄物管理委員会

防火・防災管理委員会
（防災委員会ワーキンググループ）

治験運営委員会

職員関連

安全衛生委員会
病院労使委員会
倫理コンサルテーションチーム

業務改善関連

医療勤務環境改善委員会
保険診療審査委員会

教育関連

教育・研修委員会
研修管理委員会
ACLS委員会

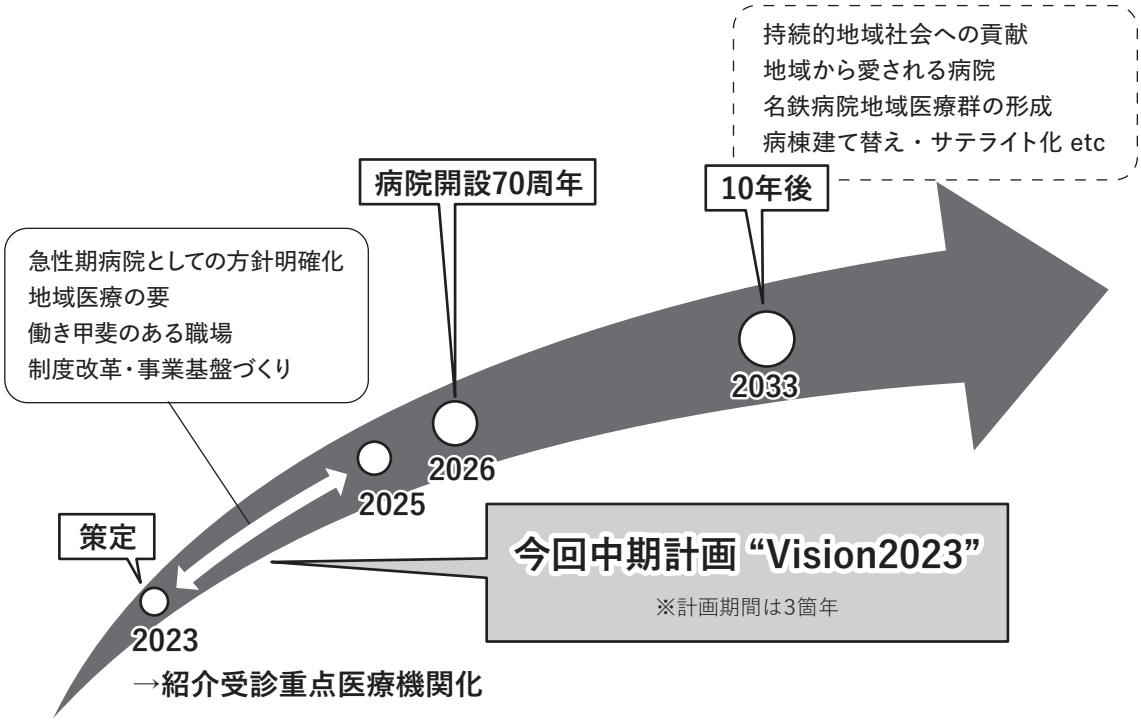
診療関連

褥瘡対策委員会（褥瘡対策チーム）
救急委員会
虐待対策委員会
ＲＳＴ委員会
クリニカルパス委員会
手術部運営委員会
医療支援センター運営委員会
医療機材購入審議会
化学療法検討委員会
給食委員会
NST委員会
患者相談窓口運営会議
ウロギネセンター委員会
倫理審査委員会
臨床研究利益相反委員会
臨床検査適正化委員会

中期経営計画（ビジョン）策定について

名鉄病院では、2023年度～2025年度の３ヵ年で、診療報酬改定を通した国が目指す急性期病院の在り方を確認し、当院が地域に求められ、永続的に医療を提供していくためにはどのような取り組みを行うべきかを全職員が理解し、将来にわたって安定的な病院運営を行っていくために、中期経営計画（ビジョン）を策定した。

今回の計画は、病院として10年先のありたい姿を想定し、この３年間をそこに至るまでに必要な準備期間として位置付け、当院の強みや弱み、社会情勢等も含めて、院内職員向けのアンケートやヒアリングを通して課題を拾い上げ、重点テーマや取組項目を設定した。なお、データ分析や計画策定にあたっては、外部のコンサルティング会社の支援を受けた。



○コンセプトと重点テーマ

コンセプト

名鉄病院は人との“絆”を大切にし、
地域医療の“要”となる病院を目指します
（リージョナルホスピタル）

○取組項目と3ヵ年の工程計画

重点テーマ	項目	2023年度	2024年度（計画）	2025年度（計画）
1 魅力ある職場づくりと人財の育成・確保	DX推進方針の具体化と実行	● 中長期のDX課題抽出 ● DX中期計画の策定 ● 院内システム要望の把握	● RPA・AI等の導入検討とトライアル実施 ● オンライン診療・電子処方箋の検討・導入 ● スマートデバイスの導入促進	
	「院内提案制度」の新設	● 制度・運用方針具体化（主な評価軸や審議プロセス等） ● 制度展開・募集開始	● 個別提案施策の実現サイクル ● 若年層交流機会の実現 ● 部門再編・個別運用改善策	
	制服の一新	● 現状職種別制服再点検 ● 各科、各部門の要望集約 ● 制服変更案の募集、検討、具体化	● 制服の変更①	● 制服の変更②
	教育研修の充実化	● 機能評価対応から現状制度・運用の課題整理 ● 新たな取り組みの具体化と提案	● 新しい教育研修の運用と取組み ● 研修の検証・評価	
	制度の改革	● 課題抽出 ● 働き方改革の取り組み・法令対応 ● 給与制度・評価制度の見直し ● 他院事例把握・鉄道人事部との連携	● 時間管理徹底 ● 制度設計・意見収集 ● 導入前調整・組合協議	● 新制度の導入 ● 新制度の効果検証
2 ブランド戦略と地域社会への貢献	情報発信とブランド力の強化	● 年報の編集・発刊・広報 ● 開院70周年記念行事企画検討・準備 ● 交通インフラ活用策具体化 ● SNS等情報発信の多様化		
	救急受入れの適正化	● 準夜帯の救外Ns１名増加の検討＋日中の病棟Nsによる患者のお迎え（繁忙時） →救外から病棟への移送ならびに入院手続き等の救外負担を軽減し、ターゲット層のお断りを減少させる。 ● 診療可能領域の設定 →診療領域の救急隊との擦り合わせと、一次救急層のお断り患者像の院内での明確化。		
3 良質な医療の提供と医療連携の強化	院外診療連携と営業機能強化	〈逆紹介の推進〉 ● 逆紹介対象者：定期的に受診・処方箋のみの単価受診患者を優先して逆紹介対象とする。 ● 宛先なし紹介状の作成と連携室での逆紹介先の選定。 ● 逆紹介対象患者を外来事務スタッフがリストアップして診察時の逆紹介を促す。 ● 院内に紹介受診重点医療機関として逆紹介を推進することが要講されている旨を掲げる。 ● クリニック医師との併診の有効活用（紹介・逆紹介共通） 〈紹介件数の増加〉 ● 既存のクリニックへの営業強化 ● 新規紹介医療機関の開拓 ● クリニック医師との併診の有効活用（紹介・逆紹介共通）		
	適切な診療体制の構築	● 科別病床数の目標管理体制 ● アフターコロナ後の病床再編（5類感染症移行後1-6病棟、地ケア病棟を軸に） ● 共用スペース使用ルールの徹底		
	看護業務の見直し	● 看護業務の見える化・改善テーマ選定と実施 ● 院内多職種連携の取り組み ● 医療安全、患者満足など病院の強みとなる職種間連携の強化		

各種委員会 活動実績

2024年4月現在

	委員会	開催頻度
安全管理関連	安全管理委員会	定期開催　1回／月
	セーフティーマネジャー委員会	定期開催　1回／月
	看護部セーフティーマネジャー部会	定期開催　1回／月
	看護部患者安全委員会	定期開催　1回／月
	院内感染防止対策委員会	定期開催　1回／月
	院内感染防止対策チーム	不定期開催（事例発生時）
	看護部感染対策リンクナース会	定期開催　1回／月
	薬品審議会	定期開催　1回／月
	ＭＥ管理委員会	定期開催　１回／年
	輸血療法委員会	定期開催　1回／2ヶ月　（奇数月）
	診療情報管理委員会	不定期開催　書面開催（随時）
	診療情報管理委員会小委員会	定期開催　１回／月
	医療情報システム管理委員会	定期開催　１回／月
	療養環境と患者サービス委員会	定期開催　１回／月
	医療ガス安全管理委員会	定期開催　１回／年
	医療廃棄物管理委員会	定期開催　２回／年
	防火・防災管理委員会	２回／年
	防災委員会ﾜｰｷﾝｸﾞｸﾞﾙｰﾌﾟ	不定期開催
	治験運営委員会	定期開催　1回／６ヶ月
診療関連	褥瘡対策委員会	３回／年（1回／4ヶ月）
	褥瘡対策チーム	1.3.4.5.7.8.9.11.12月開催（毎火曜日）
	救急委員会	定期開催　１回／月
	虐待対策委員会	不定期開催（事例発生時）
	ＲＳＴ委員会	定期開催　１回／週
	クリニカルパス委員会	定期開催　１回／月
	手術部運営委員会	定期開催　1回／月
	医療支援センター運営委員会	定期開催　1回／月
	医療機材購入審議会	定期開催　１回／2ヶ月
	化学療法検討委員会	定期開催　１回／年
	給食委員会	定期開催　1回／2ヶ月（奇数月）
	ＮＳＴ委員会	定期開催　1回／2ヶ月（偶数月）
	患者相談窓口運営会議	定期開催　1回／月
	ウロギネセンター委員会	定期開催　１回／月
	倫理審査委員会	１０回／年程度
	臨床研究利益相反委員会	２回／年程度
	臨床検査適正化委員会	定期開催　１回／月
教育関連	教育・研修委員会	不定期開催　２回／年
	研修管理委員会	１０回／年程度
	ＡＣＬＳ委員会	定期開催　１回／月
業務改善関連	医療勤務環境改善委員会	定期開催　2回／年
	保険診療審査委員会	定期開催　１回／2ケ月
職員関連	安全衛生委員会	定期開催　１回／月
	病院労使委員会	不定期開催　３～４回／年
	倫理コンサルテーションチーム	定期開催　１回/月 ※必要に応じて臨時開催

外来・入院実績

入院延べ患者数

（単位：人/年度）

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
総合内科	3,397	4,227	2,484	3,124	2,659	2,190
循環器内科	12,651	10,684	10,390	9,166	6,703	6,653
老年内科	–	–	–	–	–	4,512
腎臓内科	–	1,774	3,437	3,821	3,056	2,860
消化器内科	14,841	15,839	15,418	16,178	16,751	15,500
呼吸器内科	3,364	3,471	2,664	3,709	4,354	4,275
脳神経内科	14,222	13,293	11,117	12,850	11,132	11,902
血液内科	10,017	10,046	8,852	7,541	7,107	7,290
内分泌・代謝内科	9,368	7,504	8,357	5,441	7,028	6,911
小児科	6,886	7,032	2,907	4,348	4,318	5,450
外科	12,363	12,744	12,837	11,651	12,000	11,407
整形外科	12,202	13,430	12,416	13,951	10,857	13,557
脳神経外科	2,974	3,235	2,532	2,194	1,981	1,312
婦人科	560	466	397	326	334	200
皮膚科	968	1,234	942	684	551	661
泌尿器科	9,919	10,149	10,335	10,586	9,680	10,649
耳鼻咽喉科	124	671	2,394	2,875	3,114	2,865
眼科	836	932	656	743	905	940
その他	5	6	9	0	1	0
病院全体	114,697	116,737	108,144	109,188	102,531	109,134

外来患者数

（単位：人/年度）

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
総合内科	8,970	8,256	6,644	7,451	6,871	6,074
循環器内科	20,333	19,586	17,922	16,755	13,439	11,574
老年内科	–	–	–	–	89	1,115
腎臓内科	1,067	2,714	3,769	4,380	4,981	4,926
消化器内科	22,939	22,394	21,129	23,748	23,697	22,282
呼吸器内科	3,297	3,463	3,236	3,477	3,876	3,166
脳神経内科	19,635	19,231	17,536	19,385	19,117	17,338
血液内科	4,759	4,630	3,600	3,506	3,707	3,541
内分泌・代謝内科	24,646	26,600	26,544	25,852	25,449	23,965
リウマチ・膠原病内科	981	1,358	1,401	1,533	1,527	1,552
小児科	8,328	8,845	5,942	7,523	8,127	7,597
外科	9,930	10,742	10,137	10,727	10,237	9,460
整形外科	17,883	16,107	14,791	15,213	14,828	13,297
脳神経外科	5,212	5,181	4,599	4,686	4,034	3,523
婦人科	7,114	7,024	6,632	7,021	6,991	6,943
皮膚科	11,948	12,660	14,264	15,149	14,143	14,489
泌尿器科	17,629	19,090	18,285	19,897	20,955	21,877
耳鼻咽喉科	7,912	8,832	9,343	11,072	11,705	12,284
眼科	18,549	18,582	16,645	16,513	16,481	15,908
形成外科	–	–	–	154	251	219
血管外科	–	–	–	–	44	41
放射線科	766	707	635	734	762	780
病院全体	211,898	216,002	203,054	214,776	211,311	201,951

紹介患者数

（単位：人）

外来	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
総合内科	12	13	21	9	12	6	13	14	12	8	15	14	149
脳神経内科	62	66	45	69	49	56	65	41	67	59	64	52	695
認知症センター	55	52	51	41	52	56	52	43	50	47	53	52	604
循環器内科	57	55	52	46	58	49	57	62	65	55	68	62	686
呼吸器内科	21	16	22	23	21	22	21	15	15	22	19	22	239
消化器内科	155	138	170	163	167	154	168	173	174	164	187	184	1,997
血液内科	23	13	18	15	17	18	31	15	16	9	16	13	204
内分泌・代謝内科	41	27	29	29	30	36	21	25	36	31	38	54	397
小児科	46	66	99	93	47	52	44	51	46	28	41	48	661
外科	31	21	22	28	23	22	22	36	28	27	14	36	310
整形外科	101	91	93	89	98	83	92	109	109	94	98	102	1,159
脳神経外科	9	13	19	14	16	20	17	17	10	14	10	11	170
婦人科	18	18	19	22	22	21	21	20	20	15	18	19	233
皮膚科	34	36	41	42	39	33	51	67	39	28	36	40	486
泌尿器科	139	195	238	168	144	146	132	148	108	113	106	114	1,751
耳鼻咽喉科	50	54	88	49	78	76	72	74	62	64	58	58	783
眼科	24	33	28	21	28	20	25	19	30	32	34	33	327
腎臓内科	5	6	10	9	15	14	4	11	15	10	18	17	134
リウマチ・膠原病内科	1	2	5	6	3	4	4	5	6	1	3	6	46
放射線科	58	75	76	57	56	56	72	63	57	65	63	68	766
形成外科	3	2	1	0	2	1	0	2	2	2	1	1	17
老年内科	9	12	10	13	8	12	13	13	12	15	17	17	151
血管外科	0	1	0	1	0	2	0	2	0	0	0	1	7
総計	954	1,005	1,157	1,007	985	959	997	1,025	979	903	977	1,024	11,972
予防接種センター	4	5	7	1	3	2	2	2	6	4	5	4	45

紹介からの入院患者

（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
総合内科	3	3	0	3	5	0	3	3	4	5	3	3	35
脳神経内科	15	17	10	12	16	11	10	8	14	10	10	10	143
認知症センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
循環器内科	20	14	16	15	13	12	8	15	12	11	17	17	170
呼吸器内科	4	3	7	11	8	8	4	6	5	2	3	3	64
消化器内科	37	35	29	29	26	24	29	30	32	39	32	32	374
血液内科	7	6	8	4	5	7	9	4	6	3	4	4	67
内分泌・代謝内科	14	7	10	12	9	12	7	6	9	11	12	12	121
小児科	30	52	74	66	35	35	29	34	38	15	26	26	460
外科	21	18	8	11	18	12	15	13	10	18	15	16	175
整形外科	40	30	37	37	43	36	39	39	51	35	35	35	457
脳神経外科	0	0	3	1	1	0	2	0	2	3	0	0	12
婦人科	1	2	1	1	3	1	0	1	1	1	0	0	12
皮膚科	0	1	2	0	1	1	2	0	3	3	1	1	15
泌尿器科	59	63	71	57	54	50	59	61	48	43	58	59	682
耳鼻咽喉科	22	19	39	21	35	36	32	29	24	30	33	33	353
眼科	10	7	5	11	11	10	9	7	3	14	10	10	107
腎臓内科	2	2	3	1	5	5	2	3	4	3	4	4	38
リウマチ・膠原病内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
形成外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
老年内科	5	9	6	6	7	8	7	9	10	13	11	11	102
血管外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総計	290	288	329	298	295	268	266	268	276	259	274	276	3,387

紹介患者　紹介元医療機関様所在地

（単位：人）

年度	紹介元医療機関所在地	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
2023年度	西区	261	271	277	272	239	278	263	258	265	274	271	290	3,219
	中村区	176	221	262	185	181	161	183	191	165	143	143	151	2,162
	西名古屋	191	224	226	222	218	204	249	241	235	208	222	249	2,689
	あま市	41	37	62	48	56	45	49	55	41	30	49	49	562
	その他	285	252	330	280	291	271	253	280	273	248	292	285	3,340
	計	954	1,005	1,157	1,007	985	959	997	1,025	979	903	977	1,024	11,972
2022年度	西区	275	249	283	279	245	265	306	277	218	249	270	299	3,215
	中村区	141	123	124	117	102	113	136	154	182	127	121	157	1,597
	西名古屋	220	172	208	198	223	190	220	200	207	181	173	228	2,420
	あま市	34	33	50	46	46	64	62	37	43	41	36	42	534
	その他	247	254	336	310	261	278	261	298	278	269	244	282	3,318
	計	917	831	1,001	950	877	910	985	966	928	867	844	1,008	11,084
2021年度	西区	265	255	244	274	280	253	283	265	279	245	215	267	3,125
	中村区	138	125	150	139	114	143	146	161	161	136	115	124	1,652
	西名古屋	234	212	241	220	192	187	239	226	232	174	166	234	2,557
	あま市	37	29	45	49	50	41	67	44	56	28	36	33	515
	その他	250	211	248	236	235	246	274	301	278	257	224	267	3,027
	計	924	832	928	918	871	870	1,009	997	1,006	840	756	925	10,876
2020年度	西区	198	193	265	291	202	240	286	230	307	262	233	274	2,981
	中村区	88	71	93	111	127	97	180	139	157	109	110	135	1,417
	西名古屋	165	175	222	202	214	227	266	217	209	198	185	237	2,517
	あま市	40	34	56	59	54	39	70	44	51	37	36	50	570
	その他	184	139	261	229	252	257	263	228	249	178	223	247	2,710
	計	675	612	897	892	849	860	1,065	858	973	784	787	943	10,195
2019年度	西区	276	260	279	293	268	257	289	254	254	224	249	248	3,151
	中村区	157	112	124	129	139	125	152	153	123	118	135	118	1,585
	西名古屋	253	227	238	270	226	225	257	236	223	227	208	216	2,806
	あま市	63	54	54	52	54	64	56	55	61	56	60	48	677
	その他	234	222	219	232	233	235	274	282	253	269	207	198	2,858
	計	983	875	914	976	920	906	1,028	980	914	894	859	828	11,077
2018年度	西区	265	269	288	294	245	244	287	266	235	249	255	278	3,175
	中村区	117	139	124	131	124	132	147	153	128	103	129	155	1,582
	西名古屋	237	268	281	307	257	202	233	221	231	248	221	221	2,927
	あま市	40	44	38	63	59	47	66	43	53	63	61	71	648
	その他	197	195	223	227	250	210	251	245	244	225	198	227	2,692
	計	856	915	954	1,022	935	835	984	928	891	888	864	952	11,024

※西名古屋：北名古屋市、清須市、西春日井郡豊山町

救急関係統計

救急外来受診者（救急車+ウォークイン）の推移

（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
2023年度	729	890	779	1,064	923	902	775	791	877	888	760	797	10,175
2022年度	952	987	998	1,273	1,017	901	892	852	779	993	697	705	11,046
2021年度	837	1,046	889	1,150	1,149	1,009	942	879	967	1,080	956	912	11,816
2020年度	672	794	747	973	1,027	924	839	904	890	880	734	811	10,195
2019年度	1,030	1,146	1,050	1,144	1,253	1,067	1,030	1,050	1,310	1,352	986	787	13,205
2018年度	1,043	1,177	1,065	1,426	1,340	1,112	1,074	1,089	1,382	1,820	1,027	1,067	14,622

救急外来からの入院患者推移

（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
2023年度	217	261	206	270	250	241	217	217	250	238	240	247	2,854
2022年度	203	216	243	276	201	235	238	259	189	262	194	199	2,715
2021年度	219	246	232	232	243	243	250	220	238	259	245	214	2,841
2020年度	207	215	192	257	225	224	240	220	226	260	203	220	2,689
2019年度	273	282	266	267	283	264	248	262	296	294	247	211	3,193
2018年度	272	267	262	325	309	279	293	297	284	364	239	273	3,464

救急車搬送の推移

（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
2023年度	404	479	430	562	468	497	428	431	472	448	426	502	5,547
2022年度	509	484	565	598	409	482	459	468	380	500	380	391	5,625
2021年度	434	452	456	567	559	504	538	476	522	510	497	490	6,005
2020年度	376	416	432	521	558	496	443	473	470	448	386	441	5,460
2019年度	502	538	532	566	692	555	558	553	637	582	497	447	6,659
2018年度	543	553	528	797	756	541	601	597	617	731	523	542	7,329

救急車搬送からの入院推移

（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
2023年度	149	162	133	176	173	174	149	152	181	151	140	140	1,880
2022年度	145	137	165	175	134	154	151	181	133	192	138	126	1,831
2021年度	146	141	153	136	159	157	152	143	150	176	160	165	1,838
2020年度	133	133	126	153	142	146	157	129	140	178	129	134	1,700
2019年度	164	162	166	163	200	172	160	176	184	189	156	132	2,024
2018年度	178	173	155	201	191	181	205	190	191	219	155	167	2,206

老年内科

1. 一年の振り返り

「高齢者の総合内科」としてスタートした「老年内科」も2年目となった。地域の方々にも、少しずつではあるが認知されてきたことを感じる。地域の医師からは、マルチモビディティ（多疾患併存状態）の患者を紹介していただく機会も増加した。

2. 活動実績

2023年度も、葛谷院長を中心に国内外において高齢者における栄養と薬物療法の関連、フレイルとサルコペニア、低栄養など、主に高齢者の栄養に関する問題について、多くを発信した。さらに、老年内科で扱った症例発表も行った。（研究・業績参照）

外来診療においては、整形外科、リハビリテーション科、栄養サポート室、薬剤部、地域支援センターと連携し「フレイル・ロコモ外来」を開設した。

入院診療においては、高齢者の生命予後にかかわる骨折の治療に際し、整形外科とのコマネジメントの取り組みを開始した。

3. 今後に向けて

高齢者の活力ある生活の質をより長く保つことを目標に、病院医療のみならず、地域・在宅医療を含めた視点を大切にする。高齢者の病気を診ることはもちろん、他の医療スタッフとの協働、福祉との連携、さらには高齢者を取り巻く社会システムなどにも配慮した診療を心がける。

「フレイル・サルコペニア外来」の認知度を高め、地域医療機関の医師と協働し、高齢者のADLを維持・向上させる取り組みを進めたいと考えている。

また、高齢者に多い誤嚥性肺炎に罹患した患者が、再び生活の場に戻れるよう、多職種チームでの介入を検討していきたい。

循環器内科

1. 一年の振り返り

2023年4月に丹羽医師が名古屋掖済会病院から赴任したことにより、当科は杉浦、市原、赤星、野田、丹羽、石濱の常勤医6名での体制となった。人数が増えたことにより、緊急症例に対する対応もこれまで以上に手厚く行えるようになることが期待された。

しかし、2023年9月末に、当院で長年にわたり活躍し続けてきた赤星医師が退職をした。これにより当科は常勤医5名の体制となったが、残る人員で平日は夜間も緊急カテーテル治療にも対応し、心不全や不整脈治療など、地域の循環器疾患診療や救急医療に携わっている。

2. 活動実績

2023年度はCAG 123件、PCI 60件、EVT 15件、ペースメーカー新規移植 21件、ペースメーカー電池交換 14件、アブレーション 12件であった。丹羽医師の赴任により当院でのアブレーション治療も定期的に施行されるようになった。

従来より院内BLS・ICLSの講習会を開催して心肺蘇生の教育・訓練を行っている。2023年度には院内迅速対応システム（RST）を立ち上げ、院内急変に対応する仕組みを構築した。

また地域連携の場として定期的に循環器カンファレンスを開催しており、近隣クリニックの先生方と症例や最近の循環器診療トピックスなどについてディスカッションを行っている。

3. 今後に向けて

高齢化社会などを背景に心不全患者数は増加していくことが予想されている。今後も地域のクリニックや近隣病院との連携を強化し、心不全の早期発見や早期治療、重症化予防に取り組んでいく。紹介受診重点医療機関として、近隣クリニックからの紹介患者を積極的に受け入れていく所存である。

腎臓内科

1. 一年の振り返り

当科は2019年から、腎臓内科医の常勤医2名、非常勤医（名古屋大学腎臓内科常勤）2名の体制で、主に腎不全患者を診ている。2022年は、11月から常勤医１名が産休に入ったが、2023年6月には再び常勤医2名となり、腎不全患者のフォローを行っている。

5年目となり、これからは非常勤医を含めたカンファレンスなどを通して、腎不全に至る前の腎臓病に対する最良・最新の治療を日々検討しながら、患者個々人に合わせた腎臓病治療を行ない、減少し始めた末期腎不全の方がさらに減少していくように努めている。

2. 活動実績

2023年度の当科の入院患者数は2,860人だった。2022年度には3,056人だったため、少し減少していた。

そのため、より一層名古屋西エリアの診療所・クリニックの諸先生方と連携を取り、腎臓病患者・腎不全患者で不安がある場合はいつでも相談していただけるように、ホームページの患者紹介についてのページにCKD病診連携紹介状を掲載した。ホームページから印刷し、チェックボックスにレ点を入れて医療支援センターへFAXを送信することで、すぐに予約が取れるようにしている。

また2022年度に名古屋西エリアの連携の会を立ち上げ、2022年度には1度ZOOMにてカンファレンスを行ったが、2023年度には7月と12月の2回、西区医師会と当院共催で、ZOOMと対面のハイブリッドで連携の会を開催した。今後も名古屋西エリアの診療所・クリニックの諸先生方と密接な連携をとっていけるように努める。

3. 今後に向けて

2024年度も名古屋西エリアの連携の会などでカンファレンスの機会を増やし、腎不全に至る前の腎臓病患者や腎不全患者で不安な場合、いつでも気軽に相談していただけるように努力していきたいと考えている。

また、検尿異常が腎疾患の最初のサインであり、腎不全に至る前の腎臓病である可能性があることについても、広く名古屋西エリアの診療所・クリニックの諸先生方に知っていただきたい。それによって、腎疾患の早期発見・早期治療に結びつけ、腎不全となる以前の腎臓病の間に治療を開始することで、患者が腎不全に至ることなく生涯を全うできるように、微力ながら努めていきたい。

消化器内科

1. 一年の振り返り

2023年度は名古屋大学附属病院消化器内科より濱崎元伸医師が当科に赴任し、専門の小腸大腸疾患を中心にオールマイティに活躍している。また、2023年4月から内科専攻医研修のため日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院より市川毅留医師が赴任し、2024年3月まで当科で専攻医として研鑽をつんだ。研修医を含め4年間当院で勤務した三島茉莉医師は、2023年3月に内科専攻医研修のため1年間の予定で日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院へ異動となった。

入院患者の症例検討会を毎週行って情報を共有し、消化器内科としての診療の質を担保するように努めている。

また、各学会の専門医の取得を奨励している。現在は日本内科学会総合内科専門医4名、日本消化器病学会専門医2名、指導医3名、日本消化器内視鏡学会専門医2名、指導医3名、日本肝臓学会専門医1名、指導医1名が在籍しており、各学会の認定指導施設にもなっている。

2. 活動実績

当科では以前より、希望した患者には鎮静剤を使用した内視鏡検査を積極的に行っている。新型コロナウイルス感染症流行の影響を受けて減少した入院患者数や検査数は増加傾向となった。2023年度の当科の入院患者数は1,165名であった。病診連携施設からは1,997名の患者の紹介があり、うち374名が入院となった。また、検査においては腹部超音波検査は3,618件（造影超音波検査336件）、内視鏡検査は総件数7,482件、上部消化管内視鏡4,554件、下部消化管内視鏡2,423件、ERCP209件、超音波内視鏡113件、小腸カプセル内視鏡15件、ダブルバルーン内視鏡4件施行した。特に粘膜下層剥離術（ESD）は大林内視鏡センター長を中心に行っており、上部消化管内視鏡的45件（2022年度32件）、大腸ESD38件（同33件）と前年を比較し大幅に増加した。

3. 今後に向けて

2023年8月より当院が紹介受診重点医療機関になったこともあり、入院治療に注力すべく、病状の安定している外来患者はなるべく逆紹介するように努めている。また、紹介患者においては、予約外でも絶食で来院して当日に検査希望の場合、同日に腹部超音波検査、CT検査、上部消化管内視鏡検査等を行い、結果を説明するように努めている。

医師の働き方改革は喫緊の課題である。当科は時間外が超過している医師が多く、内視鏡検査の4～5列の並列施行や土日の当番医制の徹底、有給休暇の取得奨励などにより時間外の短縮に努めている。

今後とも地域医療に貢献できる診療科となるため、患者に最善・最良の医療を安全に提供していく所存である。

呼吸器内科

1. 一年の振り返り

昨年から当院が紹介受診重点医療機関となり、当科としても、その体勢作りに尽力した。外来業務では、2024年4月から担当が岩本和馬医師（火曜日）、太田智陽医師（金曜日）に代わった。

2. 活動実績

昨年度から気管支鏡検査件数を増やすよう取り組んでおり、検査件数は16件（2022年度）から36件（2023年度）と増加した。今後も安全に留意しつつ、積極的に気管支鏡検査を行っていきたいと考えている。

	2018	2019	2020	2021	2022	2023	大学病院（参考値）
外来患者総数	2,089	3,463	3,463	2,859	3,876	3,166	19,072
入院患者総数	157	228	172	385	320	275	1068
肺癌	23	22	11	17	19	25	419
COPD	7	5	5	7	2	9	46
間質性肺炎	6	11	15	5	13	23	110
気管支喘息	9	11	5	4	3	6	37
肺炎	107	98	30	333	263	169	102
肺結核症	5	11	3	6	4	5	2
気管支鏡検査数	20	7	2	13	16	36	266

3. 今後に向けて

① 働き方改革の推進に伴うワークライフバランスの実現は、充実した診療体系を維持していくうえで重要な課題と位置付けている。

② 地域のかかりつけ医と連携し、紹介と逆紹介を円滑に進めることで、患者にも負担のない診療に繋げていきたい。

脳神経内科

1. 一年の振り返り

新型コロナウイルス感染症の影響で入院患者数が減少した。3年経過してもなお、コロナ前には戻っていない状況が続いている。当院のみでは無く、他院でも同様の傾向が強い。当院は二次救急でもあり、救急搬送の受け入れ体勢を院内周知させることにより、お断り件数を縮小していく努力を重ねていく必要がある。

4月に研修医から柵木医師が加わり、7月には近藤医師が赴任した。年齢が若返ったこともあり、科は活気づいている。それに伴い入院・外来患者数の増加傾向がある。引き続きこの状況を良い方向へ向けていきたい。

2. 活動実績

毎週月曜日のカンファレンスは必ず行っている。症例検討は毎週カンファレンスで行っており、方向性の難しい症例は科の中で検討している。学会参加も年1〜2回は個々で実施している。講演会での発表は頻回に行っている。西区やあま市、清須市、北名古屋市の医師会との連携はこのような場所を利用して行っていると言える。名古屋大学の脳神経内科医局との連携も良好であり、人事や医局活動にはうまく参加できている。

3. 今後に向けて

大学の医局とうまく意思疎通をはかって、人材の若返りを進めていきたい。スタッフが若くなれば、活動性は上がっていくと予想される。講演会や学会活動も今の状態と同様もしくはそれ以上にやっていきたい。

血液内科

1. 一年の振り返り

2012年7月から現在の医師の2人体制となった。世相に合わせ対象患者が高齢化（常時、当科入院患者の年齢中央値は80歳代半ば）する中、医師も年々高齢化が進んでいる。

2. 活動実績

医師数（2人のみ）、設備面（無菌室なし、リニアックなし）等から、積極的な治療が可能なおよそ70歳代前半までの血液悪性疾患患者は名古屋医療センターおよび中村日赤病院に紹介としている。逆に80歳代など他では敬遠されがちな超高齢者の血液疾患患者については断らない血液内科として紹介患者を受け入れているため、意外と患者数は保つことができている状況である。

以前から一般的な発熱疾患（尿路感染症、軽症肺炎など）や不明熱、認知症に伴っての経口摂取不良等の患者については、平日午前中に内科に受診した場合、主に当科にて外来および入院治療を行っていた。しかし現在は、老年内科とともに診療に当たっている。（月・火・木曜日は当科、水・金曜日は老年内科）

3. 今後に向けて

昨今は血液内科志望の若手医師は以前より少なく、また、より集学的集中的な治療が行われるようになってきているため大病院に医師を集中させる必要がある。そのため、当院当科への新たな医師の赴任について大学医局との交渉は行っているが、まだなかなか見込めていない。そのような状況で、医師の高齢化が進んではいるものの、最低でも現状を維持しながら高齢者治療を進めている。

内分泌・代謝内科

1. 一年の振り返り

2023年度は、新入局の後期研修医2名を加えて、新たなメンバーでスタートした。これまでの活動と新人教育をともに行いつつ、糖尿病診療の充実を図った。私たちは糖尿病センターを運営し、糖尿病に関する多方面連携による治療と教育入院を提供している。2023年度においても、この使命に忠実に取り組み、患者の健康増進に尽力してきた。新たなチームメンバーが加わり、連携を調整し、患者に対して安定した治療とサポートを提供している。

2. 活動実績

疾患別患者数

間脳下垂体	6名
甲状腺疾患	135名
副甲状腺疾患およびカルシウム代謝異常	13名
副腎疾患	13名
性腺疾患	0名
糖尿病	405名
脂質異常症	51名
肥満症	4名

3. 今後に向けて

メンバーが1名減った中でのスタートであるが、糖尿病診療だけでなく、内分泌疾患を多く受け入れられるように体制の充実をはかる。糖尿病は患者数が多く、患者は複数の科や病院を受診していることも多いため、地域との連携が重要である。そのため、逆紹介や紹介患者の増加を推進し、地域の医療機関との連携強化を積極的に進め、新規入院患者の増加も目指す。また、2024年9月8日の糖尿病担当者セミナーの主催を担っており、東海地方での糖尿病診療の中核となれるような診療科を目標としていく。

小児科

1. 一年の振り返り

2023年5月より新型コロナウイルス感染症が5類扱いとなった。数々の制限が解除となり、種々の感染対策も軽微となったことで医療者の負担は減少した。

入院患者が増加した場合も、これまでは医療スタッフの感染状況で病棟閉鎖や紹介患者の受け入れを断らなければならない状況であったが、2023年度はそういった理由での紹介患者受け入れ拒否を実施することはなかった。

またこれまでと同様に、働き方改革を意識して時間内に所定の業務を終了させ、時間外労働を減少させるように労務管理を行い、当科で超過時間外労働となったスタッフはいなかった。

2. 活動実績

小児科疾患別入院患者数（2023年度）

主要診断群	患者数
神経系疾患	14
眼科系疾患	2
耳鼻咽喉科系疾患	149
呼吸器系疾患	457
循環器系疾患	2
消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患	112
筋骨格系疾患	5
皮膚・皮下組織の疾患	64
内分泌・栄養・代謝に関する疾患	33

主要診断群	患者数
腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患	16
女性生殖器系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩	0
血液・造血器・免疫臓器の疾患	5
新生児疾患、先天性奇形	5
小児疾患	15
外傷・熱傷・中毒	15
精神疾患	0
その他	90
総計	984

3. 今後に向けて

当院は常勤医4名であるが、常時対応できる医師は3名である。

2023年5月、新型コロナウイルス感染症5類移行後は、社会の人的交流も新型コロナウイルス感染症流行以前の状態に戻ってきている。そのため、種々の感染症の流行も以前のように戻りつつあり、小児感染症患者が増加している。今いるスタッフの労務管理を適切に行いつつ、近隣の診療所から紹介を受ける小児患者に迅速に対応できるよう体制を整えていく予定である。

外科・消化器外科

1. 一年の振り返り

この1年を振り返ってみると、当院全体としても、当科単科としても、依然として新型コロナウイルス感染症の後遺症を引きずっている。当科手術件数も、まだまだ新型コロナウイルス感染症前の水準までは戻っていないが、近隣の病院からの紹介も少しずつ増えており、回復に向かいつつある。特に落ち込んだ救急車の搬送数や緊急手術数も徐々に増えている。腹部救急は、断わらない救急を掲げて近隣の病院とも連携をとりながら、地域医療の扇の要となるように努力してきた。医療倫理を遵守し、医学的根拠に基づいた安全かつ良質な医療を提供していくことを目標に掲げており、一昨年から導入した大腸癌のロボット支援手術も症例数が増え、安定した成績を収めている。また、教育機関として、学生や研修医、若手外科医の教育に力を入れてきた。働き方改革も徐々に浸透してきており、以前と比べれば、働きやすくストレスのかからない環境になってきている。

2. 活動実績

当院は、大規模病院と比べると過密なスケジュールを組んでいないため、比較的手術枠や日程に余裕がある。そのため、ほとんどの症例で診断から手術まで数週間以内に迅速に手術を行うことができる。胆石症・胆嚢炎の手術もなるべくガイドラインに準じて、早期に手術できるものは早期に行っており、小回りがきくことが大きなメリットとしてあげられる。2023年度の全身麻酔件数は428件で、99%が麻酔科麻酔である。その他腰椎麻酔46件、局所麻酔手術が95件である。全身麻酔の428件のうち、開腹手術は152件、鏡視下手術は276件、ロボット支援手術は22例である。手術の内訳は、ヘルニア108例、良性胆道疾患103例、直腸切除術49例、結腸切除術47例、虫垂炎32例、胃切除27例、その他62例であり、緊急手術は109例であった。

3. 今後に向けて

消化器癌診療（手術、化学療法、緩和）、腹部救急、教育を3本柱に、引き続き、当科一丸となって奮励努力していく。癌診療は、一昨年から導入したロボット支援手術が軌道に乗ってきたため、今後は、疾患の適応拡大や執刀医の数も徐々に増やしていく予定である。外来化学療法室は、今後センター化して化学療法センターとなるため、腫瘍内科とも連携しながら最新の知見も取り入れて治療患者数を増やしていく。腹部救急は消化器内科とも連携することで"断わらない救急"をモットーに、がん緊急や良性疾患の腹部救急患者を積極的に受け入れ、緊急手術にも常時対応する。高エネルギー外傷やショックバイタルなどの超重症例は除くが、夜間・休日の緊急手術も、当院の麻酔科が対応できない場合は、麻酔科医派遣システムを利用して麻酔科医対応ができるようになったため、原則的に24時間365日の救急対応が可能となる。

また "がん患者のゆりかごから墓場まで" を目標に掲げ、癌の積極的な治療緩和からシフトした緩和ケアも充実していきたいと考えている。

その他、学生、研修医などの教育も重視し、外科医のリクルートと教育に力を入れたい。学生や研修医が少しでも外科に興味を持ってくれるような魅力ある外科にしていこうと考えている。

整形外科

1. 一年の振り返り

2023年4月に5名中3名が異動となったことで、4月から数ヶ月は手術、救急対応が前年よりも少なくなった。しかし、徐々に改善し年間を通じての手術件数は前年同程度となった。

関節鏡、スポーツ関連の手術については若干の減少はあったが、肩、肘、膝関節の鏡視下手術を年間を通じて多く行っている。

コロナ禍の影響はやや減少したが、超高齢者の骨折手術も多く、術後肺炎、経口摂取不良なども見られた。しかし転院先病院の協力の下、継続した入院リハビリが行えた。

2. 活動実績

関節鏡手術は同日に複数件実施可能で、肩の腱板損傷、反復性肩関節脱臼、膝のACL損傷、半月板損傷に対する手術を主に行っている。関節鏡手術自体の件数は若干減ったが、肩関節脱臼に関しては、他院ではあまり行われていない鏡視下でのBankart-Bristowなど前年と同程度の手術件数であった。ACL再建など、スポーツ復帰後の再断裂リスクのある症例に対しては、前外側靱帯再建術を併用する例が増えた。

外傷に対する手術に関しては、高齢者の骨折において早期手術を目標に行い（大腿骨近位部骨折は受傷後48時間以内の手術）、全身麻酔での準緊急手術も、手術室・麻酔科医の協力もあり遅滞なく行えた。

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
全手術件数	663	692	858	853	767	804	764	777
関節鏡	242	273	332	330	323	357	368	326
肩関節（腱板、脱臼、授動術など）	79	99	141	128	152	170	195	173
膝関節（半月板、前十字靱帯など）	122	122	132	132	121	140	133	101
肘関節（野球肘、変形性関節症など）	21	44	48	59	38	38	36	48
足関節	20	7	11	11	12	9	4	4
人工関節	72	60	87	68	80	98	62	87
股関節	6	1	5	4	7	5	4	7
膝関節	9	4	10	6	10	11	3	5
その他	3	1	1	2	2	2	0	0
人工骨頭	54	54	71	56	61	80	55	75
骨折	213	214	281	284	230	226	220	227
その他	136	205	158	171	136	123	114	137

3. 今後に向けて

今後も近隣の医療機関との連携をしっかり行い、当院の強みでもあるスポーツ、関節鏡手術を中心として、若手医師も多く携わる外傷等の救急症例に対応していく。

今年度の異動は1人のみで、対応の遅れなどはなく、治療継続できる見込みである。2025年度以降若手医師の入職予定もあり、引き続き若手医師のスキルアップに取り組んでいくとともに、スポーツ・関節鏡分野、外傷を含めた救急症例の対応も増やし、手術の待機期間をできるだけ短縮できるよう、病棟、手術室とも連携して対応する。

リハビリテーション科

1. 一年の振り返り

当科はPT20名、OT9名、ST4名、非常勤医師は2名体制で週に2回午前のみ勤務した。

5月からフレイル・ロコモ外来開設にむけて3名のリハビリテーションスタッフが関わり、栄養科とともにパンフレットの作成をし、評価項目の選定を行った。医師から依頼があった患者を評価し、各部署の評価結果を持ち寄りカンファレンスを実施した後、それを基に運動指導を行った。1年後に再評価をし、結果を伝えることで患者の運動への意欲向上に繋げられるように取り組んでいる。

また、長年に渡り当科の課題であったセラピストの吸引について準備を開始した。看護部と協力し、2月には座学講習を実施、2〜3月にかけては人形で実技練習、ST立ち会いのもと、実際の患者で実技研修を実施した。

2. 活動実績

リハビリテーション年間収入

入院

	患者数（名）	単位	点
心大血管	244	6,465	1,325,325
脳血管	361	25,620	6,276,900
運動器	707	19,732	3,650,420
呼吸器	491	21,586	3,777,550
がん	231	5,865	1,202,325
廃用症候群	706	20,003	3,600,540

外来

	患者数（名）	単位	点
心大血管	5	79	16,195
脳血管	77	1,328	325,360
運動器	91	3,456	639,360

HCU早期離床・リハ加算

	患者数（名）	件	算定点数合計
4月	36	116	58,000
5月	41	128	64,000
6月	31	125	62,500
7月	37	131	65,500
8月	34	168	84,000
9月	34	174	87,000
10月	38	156	78,000
11月	40	185	92,500
12月	43	172	86,000
1月	53	224	112,000
2月	50	197	98,500
3月	37	146	73,000

3. 今後に向けて

今後は当科と病棟との連携を強化し、早期リハ介入や退院支援に向けた間接的介入の機会を増やしていきたいと考えている。そのためにはチーム内勉強会・症例検討会を活発にし、ベッドサイドで活躍できるセラピストを目指して個々のレベルアップを図りたい。

脳神経外科

1. 一年の振り返り

2023年も手術数としては26件と少なく低調であった。全体に救急の搬入が減少したことが原因だと考えやすい。予定手術としては、昨年は頚動脈ステント留置術が1件、水頭症手術が2件、痙縮に対するITBポンプ植え込み術が1件、脳生検が1件と計5件であり一昨年よりは増加した。脳生検を施行した1件は進行性多巣性白質脳症という頻度の低い疾患であり、主たる診療科である脳神経内科医師により学会発表へ繋がった。

2. 活動実績

学会活動、研究会の活動としては、東海圏の痙縮治療カンファレンスの代表幹事の1人として年に1回リハビリテーションスタッフを含め研究会を開催している。また、脳神経内科と隔年で名古屋北西部脳卒中カンファレンスを主管している。

3. 今後に向けて

現在、当科としては週に2回（火曜、金曜）名古屋市立大学病院からの派遣を外来医師として受け入れている。2024年より、水頭症ガイドラインの作成を行った山田茂樹医師が外来を担当しており、水頭症の手術を更に増やしていくことができるように取り組んでいる。近隣の開業医を含め、水頭症の疑いなどがある患者は医療支援センター経由で予約を取ることができるようになれば良いと考えている。

婦人科

1. 一年の振り返り

常勤医師3名、非常勤医師3名の体制で外来を主に診療を行った。自費診療で行っていた子宮筋腫に対する子宮動脈塞栓術は、保険適応になった2014年以降、希望する患者が増加し、現在までに150件に達した。子宮筋腫は最も多忙な40歳代に有病率が高く、手術を回避したい患者の要望に応えられるよう務めた。

2. 活動実績

過去5年間の手術件数

子宮動脈塞栓術	74件
子宮悪性腫瘍手術	9件
子宮附属器悪性腫瘍手術	5件
子宮全摘術	59件
子宮附属器手術	42件

3. 今後に向けて

2024年春に内視鏡技術認定医が赴任し、腹腔鏡下手術と子宮鏡下手術を開始した。子宮筋腫や卵巣腫瘍に対して低侵襲手術を提供するとともに、次世代を担う修練医の教育に尽力する。

皮膚科

1. 一年の振り返り

12月に肥田大暉医師が常勤医として赴任し、新たな体制で日々の診療にあたっている。

名古屋大学から小泉遼医師、森章一郎医師が非常勤医として勤務することにより、生物学的製剤の導入、手術件数も増加傾向にある。

2. 活動実績

2023年度　診療実績

皮膚生検	281件
皮膚皮下腫瘍摘出術	128件
皮膚悪性腫瘍切除術	23件
皮膚切開術	78件
爪外来（自費）	132件
生物学的製剤使用	125件

3. 今後に向けて

他科、大学病院との連携をはかり、近隣の医療機関に役立てるよう努めていきたいと思っている。

泌尿器科

1. 一年の振り返り

2023年は、昨年と同様に外科系診療科の中で唯一1,000件以上の手術件数をこなし、稔りのある1年であった。泌尿器科専門医を取得した若手医師たちもロボット手術を完遂し、著しい成長が見られた。泌尿器科医は6名で診療にあたっているが、女性泌尿器科疾患も全員で担当し、泌尿器科疾患（癌、結石、前立腺肥大症などの良性疾患、感染症）と女性泌尿器疾患（骨盤臓器脱、尿失禁等）を俯瞰して診療できているため、今後もこの方針を維持しながら進めていく。

2. 活動実績

全手術件数は	1,033例
ロボット手術（ダヴィンチ）	63例
膀胱全摘	9例
レーザー結石破砕手術	181例

3. 今後に向けて

泌尿器科疾患は高齢者に多いため、今後増加する傾向にある。外来診察の患者が現在も増えてきており、待ち時間も問題視されてきている。現在の2診体制から3診体制に移行できるように医師やスタッフの増員の確保を目指していく。

現在、名古屋大学大学院泌尿器科赤松教授より、週に1度指導を受けている。これにより、名古屋大学泌尿器科と連携を深め、人材の交流や医療連携をさらに進めていく。

泌尿器科・女性泌尿器科含めて男性医師４名、女性医師３名の合計7名で構成しており、ダイバーシティーを維持し、診療の質を向上しつつ働きやすい環境づくりを維持していく。

女性泌尿器科・ウロギネセンター

1. 一年の振り返り

センター長の成島医師は1986年7月から女性腹圧性尿失禁治療や膀胱瘤の手術治療にあたり、2007年4月に新しい手術であるTVM（経腟メッシュ）手術を開始した。2008年4月には 女性泌尿器科専門外来を開設、さらなる医療サービス向上を図る目的で2012年6月から当センターを開設し女性泌尿器科専門外来の機能を当センターに移行した。開設理念は、骨盤臓器脱、尿失禁、排尿障害などウロギネコロジーの患者に総合的な質の高い医療サービスを提供することである。メンバーは、医師3名、皮膚排泄ケア認定（WOC）看護師1名、理学療法士2名、助産師1名、看護師8名、排尿機能検査士5名、医療支援センター看護師1名、医師事務2名の総勢23名で、患者が医師には話しにくいことも気軽に相談できる体制になった。

2024年3月31日までに、TVM手術を1,191症例施行し、さらに新しい手術治療として、2012年12月から腹腔鏡下に骨盤臓器脱をメッシュで吊り上げる腹腔鏡下仙骨腟固定術（LSC）を 2,123症例行い素晴らしい成績を上げている。

一方、2014年2月から骨盤底筋体操教室を開設、2015年6月からペッサリー自己着脱指導外来と骨盤底筋体操個人指導外来を開設した。2018年4月からは渡邊日香里骨盤底筋訓練専門理学療法士が当センター専従として加わり強力になった。さらに2018年10月にはウロギネ相談外来を開設した。

また2023年4月から、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院女性泌尿器科に勤務していた加藤久美子医師が当センターの副センター長として加わり医療体制が強化した。（加藤久美子医師は2023年12月から体調を崩し2024年６月まで休職中であったが、2024年7月から復職。）

メンバーは骨盤臓器脱、尿失禁、排尿障害などについて専門的な知識を持ち、患者が安心して治療を受けられる環境を作っている。

2. 活動実績

LSC（腹腔鏡下仙骨腟固定術）：217件、TVM手術：63件、腟閉鎖術：60件、
腟壁形成術：4件、TVT手術（腹圧性尿失禁根治術）：48件

3. 今後に向けて

2023年4月から、TVM手術、腟閉鎖術、TVT手術（腹圧性尿失禁根治術）のエキスパートの日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院女性泌尿器科に勤務されていた加藤久美子医師が当センター副センター長として加わったため、患者のニーズに合ったウロギネ治療を行う予定である。

耳鼻咽喉科

1. 一年の振り返り

昨年度と同様に、3名常勤体制で植田耳鼻咽喉科部長、小川医師、近藤医師および代務3名で診療を担当した。外来患者数は増加したが入院患者数、手術件数はやや減少した。収益は月別にみると、4月・8月・2月が多く、5月・7月・1月は少ない傾向を認めた。やはり、休日が多い月や医師の休みが多い月が影響すると考えられた。

2. 活動実績

外来延べ患者数は12,284名、入院延べ患者数は2,865名であった。入院患者での手術件数は合計373件で昨年度よりやや減少した。主な手術は鼓室形成術89件、アブミ骨手術13件、人工内耳植込術1件、鼓膜形成術18件、リティンパを用いた鼓膜穿孔閉鎖術18件、鼓膜チューブ留置術34件、内視鏡下鼻副鼻腔手術58件、扁桃摘出術18件、喉頭微細手術8件などであった。検査では、PSG197件であった。PSGの件数は増加傾向を認めた。

3. 今後に向けて

2024年度より、睡眠障害の日本での権威である中田医師が赴任し耳鼻咽喉科の一部門として睡眠障害センターが立ち上がった。今後は、耳鼻咽喉科一般疾患のみならず、中耳サージセンターおよび睡眠障害センターの両輪で最先端の専門性をもった診療を提供したい。

眼科

1. 一年の振り返り

新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられ、少しずつ外来・入院患者数が回復しつつある。
常勤医師３名体制は維持しており、全員専門医である。
現状に慢心することなく、各自スキルアップを図りながら診療にあたりたい。
2024年5月から視能訓練士が1名復職するため、検査待ち時間の短縮に期待している。

2. 活動実績

白内障手術：404件（全例、入院にて施行）
硝子体手術：10件（全例、入院にて施行）
硝子体注射：58件（黄斑浮腫に対し施行）
レーザー　：98件

3. 今後に向けて

近隣病院の先生方とは、これからも連携を図り、眼科検査を要する全身疾患の方や入院での手術が望ましい手術適応の方などの対応をしていく所存である。

麻酔科・中央手術部

1. 一年の振り返り

手術室内の麻酔管理だけでなく周術期全体を管理することを目標に活動を広げている。2023年6月から術後疼痛管理チームの活動を、麻酔科医師、手術室専属の薬剤師、麻酔科診療看護師のチームで始めた。手術前の麻酔説明、看護師面談についても、手術室面談室を使用し外来で行う症例を増やしている。

2. 活動実績

2023年度、麻酔管理件数は1,404件だった。緊急手術は105件あり、昨年度よりも60件増加した。夜間や休日の緊急手術にも麻酔科が対応した。

術後疼痛管理チームは、術後に持続鎮痛薬を投与している患者を対象に術後3日間回診している。年度途中からだったが、実績としてはのべ879件だった。

3. 今後に向けて

昨年末に麻酔科医師が1名退職したのを機に、人員が欠損する日については外部から麻酔科医師を募集し麻酔件数を維持するようにしている。また、一部の休日の緊急手術を外部の麻酔科医師に依頼して対応している。

麻酔科所属の診療看護師を増やすように、周麻酔期看護師養成大学院に社会人大学院生として通う看護師が新たに麻酔科に加わった。今後の活躍を期待している。

放射線科

1. 一年の振り返り

新型コロナウイルス感染症の影響で、2022年度はCT、MRIを中心に、当科関係の検査件数が伸び悩み、近年の最低レベルであった。2023年度は、少し持ち直し増加傾向に転じているが、新型コロナウイルス感染症流行前のレベルには達していない。CTでは、前の年度で2代目の装置が導入されたことや、放射線技師による造影剤投与の静脈確保が軌道に乗り、造影を含む予約外のCT検査への対応もスムーズになった。MRIは、相変わらず予約希望に対応できず、20時頃まで稼働している日もある状態であった。

2. 活動実績

2023年度、当科で行った各検査数は以下の通りである。

ポータブルを含む一般撮影	：32,539件
CT	：19,420件
MRI	：6,753件
RI検査	：489件
超音波検査	：9,549件
骨塩定量	：332件
血管造影	：222件
透視、造影検査	：1,948件

3. 今後に向けて

当科は病院の中央部門であり、様々な診療科の検査を行う。「一年の振り返り」でコメントした通り、CTに関してはかなり柔軟な運用が可能となった。しかし、MRIは1台体制であり、予約が取り難い状況が続いている。2台目MRIの導入などを含め、今後検討していく。当科は、院内の各診療科からの検査に対応するのが主な業務で、当初から当科を受診する患者はほとんどいない。しかし、医療支援センターを介し、他院からの検査を受け付けている。主にCT、MRIが多いが、例えば、認知症の診断補助に脳血流シンチ、パーキンソン病の診断補助にMIBGシンチやDAT Scanなど、依頼いただけたらと思う。

救急部

1. 一年の振り返り

二次救急指定病院として2023年度は約5,500台の救急車を受け入れた。紹介患者においては、医療支援センターと情報共有し診療につなげた。

2. 活動実績

救急外来実績の推移

（単位：人）

	2020年	2021年	2022年	2023年
受診者数	10,195	11,816	11,046	10,175
うち入院患者	2,689	2,841	2,715	2,854
入院率	26.4%	24.0%	24.6%	28.0%
救急車	5,460	6,005	5,625	5,547
うち入院患者	1,700	1,838	1,831	1,880
入院率	31.1%	30.6%	32.6%	33.9%

救急隊との連携

・合同症例検討会

2023年7月31日　救急隊31名　当院医師3名　研修医6名参加

2024年2月19日　救急隊20名　当院医師2名　研修医6名参加

・救急救命士実習受入　就業前実習3名　再教育実習3名

3. 今後に向けて

専門各科、看護師、放射線技師、薬剤師等各部門スタッフと協力し診療にあたる。また、より良い救急医療を目指し、近隣の病院、医療機関、地域との連携を強化していく。

輸血部

1. 一年の振り返り

2023年6月に行われた病院機能評価の際に、サーベイヤーから、血液製剤を輸血部から払い出した後の運用について問題があるとの指摘があった。輸血療法委員会での話し合いの結果、「血液製剤は原則1本ずつ払い出し、一度払い出された製剤は輸血部の血液保冷庫で保管しない。」とした。2023年8月に輸血の知識を深め、安全な輸血を行う事ができるように製剤、副作用、危機管理などについて血液センター学術課の講師を迎えて輸血講習会を開催したが集まりが悪かった。そのため2024年3月はWeb視聴にしたところ362名が視聴した。2023年11月1日からアルブミン製剤について、オーダーを輸血システムと連携させた運用を開始した。それにより、アルブミンの在庫や使用、製剤ロットの管理をリアルタイムで把握することができ、在庫管理が正確となり月報作成も容易となった。手書きの製剤管理簿や薬品伝票も不要となり、看護師の業務負担を少しでも軽減することができたと思われる。

2. 活動実績

2023年度実績（2023年4月～2024年3月）

【血液製剤】

	RBC	PC	FFP	5%ALB	25%ALB
使用数	2,784単位	2,195単位	78単位	174本	574本
廃棄率	0.3%	0%	5.0%	0%	0%

【検査件数】ABO血液型検査4,634件、RhD血液型検査4,634件、直接抗グロブリン試験33件、間接抗グロブリン試験27件、不規則抗体検査2,969件、交差適合試験1,646件、Rhフェノタイプ検査34件

【委員会の開催】 輸血療法委員会（6回/奇数月）

【輸血講習会】 2023年8月3日、4日：第1.2会議室
2024年3月：Web視聴

【マニュアル改訂】輸血療法マニュアル第12版

3. 今後に向けて

輸血部から払い出された血液製剤の病棟における確認の仕方について、意見や要望が出ている。今後も輸血療法委員会で検討していく。輸血マニュアルを改訂する際は、分かりやすい文章で皆が使いやすいものとなるように改訂していく。今後は安全な輸血業務を実施するため、院内スタッフへの教育としてWeb講習会を積極的に取り入れていきたい。

予防接種センター

1. 一年の振り返り

2023年5月に新型コロナウイルス感染症の制限が解除され、海外渡航者が増えてきており、2024年もその傾向が続いている。2024年3月からは当院にて黄熱ワクチンを扱うことができるようになった。黄熱ワクチンは接種できる医療機関が国により制限されている。黄熱ワクチンを接種しないと入国できない国が中南米とアフリカにあり、そのような渡航者にとって接種が必須である。名古屋で黄熱ワクチンが接種できるようになったため、関東や近畿圏から接種を目的としての来院がある。

小児の定期予防接種については、ほぼ正常に戻ったと考えられる。2024年度末までHPVワクチンのキャッチアップキャンペーンが行われており、平成9年度以降生まれの女性については積極的に勧めている。

2024年には、RSワクチンが妊婦に認可され、妊婦に接種して胎児に免疫をつけることが可能になった。

2024年4月には、コロナワクチンが65才以上で10月～1月の期間のB類定期予防接種に指定された。4月以降コロナワクチンは市場から姿を消したため、VISA申請などでコロナワクチン接種が書類上必要になった人がコロナワクチンを入手できずに問題となった。7月にはファイザーが1人用バイアルの供給を開始したことで接種ができるようになったが、接種費用は非常に高価である。

コロナワクチンはメリットと副反応のデメリットのバランスで、接種を希望しない人も増えてきた。ウイルスの変異によりコロナワクチンの感染予防効果は限定的になり、重症化予防効果が期待される。通常の副反応として3日以内程度の発熱、頭痛、倦怠感であるが、数は少ないながら半年～数年以上にわたる日常生活に支障のでる広範囲の痛み、全身倦怠感、脱力を訴える人がおり、既存の検査では異常が見つからないため、対症療法しか方法がない。一方新型コロナウイルス感染症の感染症状はほとんどが軽症で済むようになった。今後は新型コロナウイルス感染症の重症化リスクとワクチンの副反応リスクを比較して接種を決める必要がある。新型コロナウイルス感染症出現当時は致死的な疾患であったため多少のワクチンの副反応は許容されたが、従来の考え方を変える必要がある。

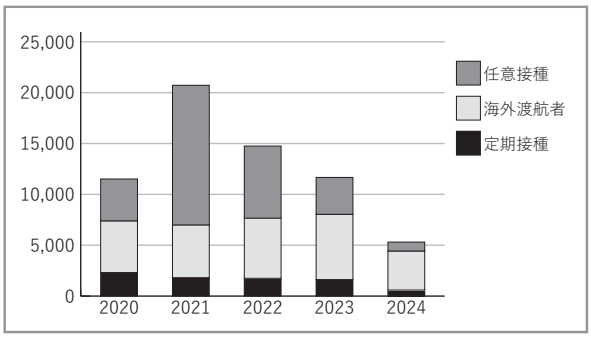
2. 活動実績

図1に当院での接種者の推移を示す。海外渡航者向け、インフルエンザワクチンなどの国内、小児の定期予防接種に大別される。年間延べ1万人〜1万5千人が受診する。新型コロナウイルス感染症以前（2019年以前）は海外渡航者向け予防接種が全体の7~８割を占めたが、コロナ禍により海外渡航者が減少したため、コロナワクチン接種者が増加した。

海外への留学生には英文の予防接種証明書を作成している。

	定期接種	海外渡航者	任意接種
2020年	2,315	5,082	4,117
2021年	1,813	5,184	13,729
2022年	1,748	5,915	7,088
2023年	1,623	6,418	3,626
2024年	595	3,838	874

図1．2018年〜2023年9月の外来受診者数。



3. 今後に向けて

海外渡航者向けワクチンとして、黄熱ワクチンがある。従来検疫所でしか接種することができなかったが、2022年2月から検疫所の巡回接種、2024年3月から当院での接種が開始した。原則毎週水曜に集団接種を行っている。繁忙期には接種のために東京や大阪などから来院する人もいる。

海外渡航者が増えるにつれ、海外で動物にかまれる人も増えてきており、狂犬病暴露後接種の来院者も増加している。海外でかまれた後は狂犬病ワクチンが必要であることが周知されてきたことも大きい。

2024年に新しいワクチンが相次いで承認された。

RSワクチンは、GSKのアレックスビー、ファイザーのアボリスボである。アボリスボは妊娠中（24週〜36週）に接種し、胎児に移行させて新生児のRSウイルスのリスクを減らすワクチンである。

ダニ脳炎は日本ではあまりなじみのない疾患であるが、ドイツから北海道にかけてユーラシア大陸に分布する疾患で、名前の通り脳炎を起こす。マダニが媒介動物で、マダニに吸血されることで感染する。タイコバック®が承認されたので、今後国内で広く使うことができるようになる。

海外渡航者向けの「東海渡航ワクチンセミナー」、市町村、保健所向けの「予防接種懇話会」も年に1回開催し、啓発に努めている。

内視鏡センター

1. 一年の振り返り

新型コロナウイルス感染症が令和5年5月より5類感染症に移行したことを受け、内視鏡検査時の感染対策はガウン、サージカルマスクは必須、N95マスク、フェイスシールドは任意としたが、内視鏡関連での感染は認めなかった。近隣のクリニックより内視鏡治療適応となる症例を多く紹介されたことにより、例年に比べて件数を増加することができた。

2. 活動実績

2023年度の内視鏡件数は以下の通りである。

	令和5年度	令和4年度
総件数	7,482	7,523
上部消化管内視鏡	4,482	4,554
下部消化管内視鏡	2,559	2,423
内視鏡的逆行性胆管膵管造影(ERCP)	222	169
超音波内視鏡検査	113	104
小腸カプセル内視鏡	15	18
ダブルバルーン内視鏡	4	10
上部消化管(食道・胃・十二指腸)内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)	45	32
大腸ESD	38	33

総件数はわずかに減少したが、ERCP、上部消化管ESD、大腸ESDは増加しており、内視鏡治療の件数が増加した。

3. 今後に向けて

昨年度の内視鏡治療が増加したこともあり、令和6年7月より最新の高周波手術装置であるVIO3を導入した。より正確で安全な内視鏡治療が可能となるため、近隣のクリニックにも積極的にアピールしていき、内視鏡治療の件数の増加を図りたい。また、総件数は7,800件を目標とし、スクリーニング検査も含めて件数の増加を目指したい。

健診センター

1. 一年の振り返り

2023年度は、健診システム更新から1年が経ち、以前と比較して改善された点と、更なる問題点が浮き彫りになった年であった。

	利点	問題点	対策
Web予約		• 一般受診者対象であり十分機能せず	• 周知できるようにアピールが必要 • 標準コース以外も可能となるように検討 • コースやオプション内容変更を簡略化
受付業務	• 予約時にオーダー入力可能 • 各受診者に必要な書類が一式出力可能	• 複数画面の展開が必要	• 今後もよりよい方法を模索検討
Web問診	• 問診表のOCRによる取り込みの手間省略 • 前日に確認、問診時の準備が可能 • 問診時間の短縮	• まだ25%の受信者が紙問診 理由：忘れていた、めんどくさい、不安 • 入力の不備、不十分な点がある	• 締め切り日時の変更も検討 • 来院後待ち時間での入力も検討
当日運用	• 計測値の自動入力可能 • 採血スピッツを1人分ずつ準備可能 • 各診療部門からWeb入力が可能 • 検査進捗状況確認しながら采配可能	• 検査結果の用紙出力、添付作業は残る • 入力の不備、不十分な点がある • パソコンにて常に進捗確認が必要	• 他科とのつながり関係の強化 • タブレットの活用も要検討
報告書	• 自由にカスタマイズ可能 • 電子カルテ上でWeb報告書閲覧可能	• 手数も多く不十分な箇所が存在 • 各企業へのPDF報告書不可	• 必要に応じて適宜変更改良 • 個人のWeb報告書、企業のPDF報告書検討

これからも、経過を観察しながら善処していく所存である。

2. 活動実績

2014年度～2023年度受診者変移

年度	ドッグ受診者数	男性	女性	女性の割合	乳がん検診	子宮がん検診	上部消化管内視鏡	胸部CT	脳MRI／MRA
2015	2,607	2,023	584	22%	271	323	668	135	293
2016	2,942	2,218	724	25%	331	423	890	184	307
2017	3,047	2,260	787	26%	445	476	1,016	238	473
2018	3,550	2,716	834	23%	444	507	1,194	318	374
2019	3,776	2,973	803	21%	429	476	1,303	258	632
2020	3,436	2,679	757	22%	439	470	1,021	271	622
2021	3,576	2,700	877	25%	610	558	1,392	319	540
2022	3,708	2,762	946	26%	704	614	1,527	438	661
2023	3,948	2,950	998	25%	734	658	1,608	464	717

リピーターを維持しながら、年々総受診者数も増えてきている。理由として、健康志向に加え、年齢層も次第に高くなってきている影響が考えられる。特に、上部消化管内視鏡検査、胸部CT検査、脳ドックの件数が増加している。以前は圧倒的に男性が多い傾向だったが、女性の受診者も定着してきた。

3. 今後に向けて

受診者が関心を持ち希望される検査内容が、時代とともに次第に変化してきている。今後も、受診者に寄り添った健診センターであるために、現在の精度を落とすことなく、検査内容やオプション検査なども再考しながら進化していきたいと考えている。受診者が快適に受診できる健診センターであるために、まずは、スタッフ一同が自身の健康管理のもと、笑顔で明るく丁寧な仕事をしていきたいと考えている。

中央臨床検査部

1. 一年の振り返り

世界的に猛威を振るった新型コロナウイルス感染症は、令和5年5月より感染症法における分類が5類へと変更された。しかし、未だコロナ禍からの完全なる脱却は出来ない中、社会経済活動は従来通り行われるようになり、新型コロナウイルスとの共存が求められた。その余波は、当検査部で行っている新型コロナウイルス関連検査に大きな影響を与え、依頼件数が大幅に減少することとなった。このような状況下で更なる効率化を求められ、同時にインフルエンザ検査が実施できる簡易検査（イムノクロマト法）を採用し、より迅速に臨床へ結果報告できるよう努めた。

同年6月においては、申請中であった日本臨床衛生検査技師会から10部門（臨床化学・血液・免役・微生物・細胞・一般・生理・輸血・病理・遺伝子）の品質保証認証施設として承認され、検査の精度及び品質を適正に保つ体制が構築されていることを立証した。また、その後に病院全体の品質向上を目指し、多職種者と協働して病院機能評価を受審した。安全・安心な医療を受けられる環境整備を行った1年となった。

2. 活動実績

年間検査件数　2023年度累計（2023年4月～2024年3月）

部　　門	2023年度（件）	2022年度（件）	前年比（件）
生　　化	1,538,610	1,497,861	40,749
血　　液	194,914	190,643	4,271
一　　般	41,833	40,081	1,752
細　　菌	38,751	40,534	▲ 1,783
病　　理	11,197	11,392	▲ 195
生　　理	23,320	24,216	▲ 896
輸　　血	13,977	14,581	▲ 604
合　　計	1,862,602	1,819,308	43,294
新型コロナ関連検査	7,150	16,606	▲ 9,456
PSG	197	150	47
排尿機能検査	136	94	42
中央採血室採血人数	60,273	59,956	317

3. 今後に向けて

2024年4月から新たに睡眠障害センターが開設されることにより、睡眠時無呼吸症候群の治療が本格的に開始される。経験豊富な日本睡眠学会の総合専門医をはじめ、専門検査技師2名が赴任し検査から診断・治療までを連携し対応する。鉄道事業や交通事業を広く展開する母体企業グループを有する当院としての役割や、一般に睡眠障害で悩まれる方を幅広く診療するため、より多くの患者がPSG（終夜睡眠ポリグラフ）検査を受けると見込んでおり、専門性の高いセンターの1つになっていくと思われる。

2024年6月の診療報酬改定の影響で非常に厳しい運営を迫られると考える。しかし、臨床検査においては疾病の診断や治療方針の決定における科学的根拠として必要不可欠であり、正確で迅速な検査が求められる事は変わらない。医療を取り巻く状況は刻々と変化するが、引き続き研鑽に努め良質で適切な医療を支える部門として貢献していきたい。

病理診断科

1. 一年の振り返り

現行の臨床研修制度は2004年に始まっているが、発足当初から現在に至るまで、臨床研修の到達目標の必修項目に、「CPCレポート（剖検報告）の作成・症例提示を自らおこなった経験があること」と明記されている*1ことは意外と知られていない。病院機能評価の際にも、研修医の数に応じたClinical Pathlogical Comferenceが開催されているかどうかは丁寧にチェックされる。よって、年度初めの研修医のオリエンテーションの際には、苦手意識を起こさせないように注意し、説明を工夫している。また、がん診療の学び・振り返りのために、治療ガイドラインは医師用（専門医向け）と患者用の双方を用意することにした。病理のセンスがある研修医が一流の医師に成長していくのは頼もしい限りである。

しかしながら、剖検室の空調故障が2023年8月30日に発覚し、現在もまだ復旧していない。完全復旧の工事には1年ほどかかる見通しであり、盛夏には剖検を中止せざるを得ないため、早めの復旧を切望しているところである。

＊1 厚生労働省HP 別添 臨床研修の到達目標　II 経験目標 (6) 医療記録

2. 活動実績

2023年度実績（2023年4月1日～2024年3月31日）

病理組織件数

総数	生検	手術材料	術中迅速	剖検数
4,206	1,825	2,356	25	5

細胞診件数

総数	婦人科系	呼吸器系	その他
5,580	3,710	70	1,800

細胞診断に関する統計量

	陰性	疑陽性	陽性	材料不適	合計	組織対比
婦人科	802	12	8	99	921	19
呼吸器	45	6	13	6	70	14
消化器	10	6	3	0	19	6
泌尿器	1,174	160	56	0	1,390	106
乳腺	33	11	11	17	72	15
甲状腺	88	17	9	40	154	3
体腔液	100	11	21	0	132	18
リンパ節	5	1	3	0	9	3
その他	16	5	3	0	24	4
合 計	2,273	229	127	162	2,791	188

陰性判定件数（オーダ数）	4,805
陰性判定標本のダブルチェック件数	4,776 (99%)
陰性例の専門医チェック件数	754 (15%)

3. 今後に向けて

名古屋市立大学医学部付属病院東部医療センター産婦人科において、2024年から産婦人科領域のがん診療・治療に一層力を入れることになった。そのため、医師の人事異動があり、名鉄病院ではがん検診と良性腫瘍の治療に注力することとなった。よって今後は、セカンドオピニオンやピアレビューに耐えうる、精度の高い病理組織診断・細胞診断がますます重要になる。

2022年の保険改定で、液状細胞診（LBC）について、婦人科材料等液状化検体細胞診で36点を所定点数に加算することが決定したが、厚生労働省は算定要件を変更することでLBCの普及を図っており、2024年の改定では45点に引き上げられ、折よく今年度名鉄病院にもついに導入された。今後は技術の進化、DX化のメリットを十分に活かしてルーティンワークを効率化するとともに、診断制度の向上や生涯教育にさらに時間と労力を振り向けていく所存である。

薬剤部

1. 一年の振り返り

手術室業務については、術後疼痛管理チームの一員として術後回診に参加し、「周術期薬剤管理加算」の取得に関与した。また、全身麻酔用の薬品カートを作成し薬品管理をすることで不要在庫の削減に努めた。

2023年度も薬品供給不足が発生したが、医師の治療への支障が少なくなるよう先発医薬品を含む代替薬の確保に努めた。

外来化学療法室での関わりを強化し、主治医への確認や提案をより積極的に行った。また、院外薬局と連携したトレーシングレポートのやり取りを通して「連携充実加算」の算定を行った。西薬剤師会での外来化学療法の取り組みに関する研修会を開催した。

入院前支援業務を全身麻酔および耳鼻科まで拡大させ、入院予定患者への面談件数は増加した。

また、褥瘡チームについては担当薬剤師を決めてラウンドへの参加を行い、NST非介入患者に対しては医師の依頼に基づいたTPNメニューの提案を行った。

入院患者の持参薬鑑別において、当院に採用が無い薬剤については同効薬の提案をした。

薬剤部内の人員配置を見直し、若いスタッフが病棟専従薬剤師となり、ベテランのスタッフが補佐・フォローアップをする体制をとった。

2. 活動実績

手術室を専任で担当する薬剤師を決めて薬品管理をより積極的に行った。また、平均91.5件/月のラウンドに同行し、周術期薬剤管理加算としては23件/月を算定した。

薬品供給不足に対応するため、当院の職員が閲覧可能なシステムであるグループウェア内の「各部門のお知らせ」に薬品在庫状況一覧を載せ、出荷調整の有無や在庫量を医師が分かるようにした。（73品目/2024.6現在）

外来化学療法室においては、院外薬局との連携を図り連携充実加算として平均15.8件/月を算定することができた。

入退院支援業務については、看護師やメディカルスタッフと相談しながら介入する診療科を増やし、持参薬の鑑別や事前に中止が必要な薬剤の説明等に取り組むことができた。介入件数としては2022年度は平均41.3件/月であったが、2023年度は平均41.5件/月とさらに増やすことができた。

褥瘡ラウンド件数は、平均61.9件/月であった。

入院患者において薬剤管理指導件数は、退院時薬剤情報管理指導料を含めて平均1,278件/月、服薬指導実施率は平均61.6%/月であった。

3. 今後に向けて

医療関係法規に逸脱のない範囲での医師の業務軽減につながる取り組みを行う。具体的には「医療勤務環境改善ワーキング」の計画書案に沿って検討・実施していく。

手術室業務に関しては、麻酔科医と相談しながら医薬品関連で貢献できるものを構築していく。泌尿器科の手術で使用する薬品のカートセット作成を行う。

継続して医薬品の供給不安定にできる限り対応し、引き続き代替薬の確保に努める。

外来化学療法室業務として他職種、院外薬局との関わりを深め、積極的な連携を行う。

入院患者における服薬指導実施率70%/月以上を目指していく。また、各病棟での実施率にばらつきがあるため、精査や対応が必要である。上記を達成するためには、病棟薬剤師同士の連携強化や薬剤師としてのスキルアップが必要となる。

不要と思われる持参薬の削減に向けた積極的な提案を行い、薬剤総合評価調整加算を積極的に算定していく。

看護部

1. 一年の振り返り

看護部ではBSCを活用し、目標管理を行っている。目標ごとに活動をまとめ、一年を振り返る。

【2023年度看護部BSCの考え方】

2022年度看護部BSCで目標が達成できず課題が残った取り組みを継続し、2023年度の看護部BSCは優先的に取り組む必要がある事項を重点目標とした。「支える」「支援する」ことを意識して実践したことで、成果が実感できる活動としたい。

【2023年度 看護部重点目標】

（1）個々の対象の意思を尊重した看護の実践
（2）的確な判断に基づく安心安全な看護の提供
（3）生き生きと働き続けられる看護業務の見直しと改善

【各目標の振り返り】

（1）個々の対象の意思を尊重した看護の実践

その人らしさを尊重した意思決定支援のひとつとして、地域と連携してサービスを活用することで希望する自宅退院の割合を低下させることなく支援することができた。病状からサービス等の調整を必要とするケースが年々増加しており、ケアマネとの関係性においても更に連携が必要な状況である。今後も退院支援の充実のために、十分な選択肢や具体的な支援についての説明が重要であり、施設訪問・退院前・退院後の訪問なども用いた退院支援の活動が期待される。また、意思決定支援の実施については、「意思決定支援の指針」の活用を意識し、各部署で取り組み事例検討を行った。検討を重ねる中で患者情報の共有に課題があると考えられた。今後は外来～入院～退院まで患者・家族の思いを引き出し、具体的な活動内容や計画、評価指標について意思決定支援をつなぐ取り組みについて検討していく必要がある。良質な医療・看護の提供のための倫理観の向上では、検討事例の積み重ねと学ぶ機会が必要である。倫理コンサルテーションへの提出件数は3件と少なかったが、「患者にとって何が最善か」を考えることで看護のやりがいにもつながると考える。検討会に出席することによって多職種と意見交換ができよい学習の機会にもなる。個々の対象の意思を尊重した看護の実践につなげるためにも、対象にコミットし個々の意思を尊重した倫理観に基づく看護の提供を目指し、看護部全体でさらに取り組みを発展させる必要がある。

（2）的確な判断に基づく安心安全な看護の提供

患者の病態生理における状況把握が充分できておらず、看護実践が確認行為に反映されていない実態がある。的確な判断に基づき重症化予防や生活機能の低下を防ぐことは、専門職看護師の業務であり療養上の世話において重要な役割であるが、アクシデント全体では64件、褥瘡やMDRPUがほぼ影響されないアクシデントの3bレベルにおいては昨年度より14件増加している。心理的安全性を高めるために率直に会話ができるコミュニケーションによってお互いの仕事や進み具合について気を配り、協力し合える（支え合える）体制や風土作りが患者安全につながると考え、心理的安全性の学習会や会議では事例検討を行った。患者安全委員会ではインシデントの発生事例から、マニュアルの見直し・修正に取り組んだ。「確認行為を怠らない」「立ち止まって考える」「違和感があるときは声に出して伝える」「マニュアルの遵守

を徹底する」ことで患者を守ることができると再認識し、学習会・事例検討の学びを部署責任者が中心に現場で実践として活かすことによって、アクシデントの再発防止と件数の減少に今後も努めたい。

また、看護提供方式の現状把握と見直しでは、時間外調査アンケート結果より、動線・記録・カンファレンスのあり方などの課題が明らかになった。PNSのメリットでもある2人で確認・処置を行うなどは今後も継続する。基本的にはセル看護提供方式に移行することで転倒転落の防止や受け持ち患者が減り充分な患者把握や理解ができるため、患者の安全・安楽にもつながると考える。しかし、今後も協議を重ね継続した検討が必要である。

(3) 生き生きと働き続けられる看護業務の見直しと改善

当院のビジョンである中期計画では、1番の重点テーマは「魅力ある職場づくりと人材の確保」である。「看護業務の見直し」を計画し、業務改善に取り組んだ。業務改善による時間外勤務時間の減少のために、時間外アンケートで看護業務の見直しを行い、業務改善のモデル病棟においては業務量調査を行った。全体的に時間外は減少傾向にあるが、業務改善の取り組みは継続中である。また、日頃の業務で困っていることや多職種共同において主に9件の業務改善を実施できた。

部署異動の仕組み作りとして、異動の目的や理由・メリットが理解でき、スタッフが前向きに異動を考えられるように希望申請用紙を作成し対応したが、自部署に留まりたい希望のスタッフが多く実際の異動に至るまでに難渋した。メンタルヘルス対策は、部署からの相談や個人的なメンタル問題について、看護部に相談があり対応するに留まった。引き続き、中途採用者のスタッフも職場に馴染めるように支える必要がある。生き生きと働き続けられるにはメンタルヘルスに配慮した看護師の健康管理が重要である。円滑なコミュニケーションがメンタル面に影響することを考えると「心理的安全性」「サーバントリーダーシップ」「自己効力感を高める」などを考慮し良好な職場環境につなげ、今後も人員の確保に努める必要がある。

2. 活動実績

(1) 個々の対象の意思を尊重した看護の実践

各視点の戦略目標		重要業績指標（KPI）	KPIの目標値	結果
財務の視点	病院経営への貢献	入退院支援加算	各項目2019年度以上の件数	2019年度：3,969件　2023年度：4,603件
		介護支援連携等指導料		2019年度：217件　2023年度：152件
		退院時共同指導		2019年度：79件　2023年度：109件
		退院前訪問		2019年度：14件　2023年度：8件
		退院後訪問		2019年度：4件　2023年度：0件
		在宅患者訪問看護指導→多機関共同指導加算		2019年度：31件　2023年度：29件
外部顧客の視点	個々の対象の意思を尊重した看護の実践	患者の望む場所への退院	自宅退院の増加 自宅→自宅の割合	2022年度：4,949件(89.2%) 2023年度：6,346件(89.3%)
		患者の意思に沿った意思決定支援の実施	看護師の接遇に関する項目の評価値が前年度以上 →看護師の接遇に関する項目の良い件数の増加	療養環境とサービス委員会よりWeb・ご意見箱の投書 【良いところ・お礼】 前半期：13件　後半期：27件 【悪いところ】 前半期：21件　後半期：17件

<table>
<tr><th colspan="2">各視点の戦略目標</th><th>重要業績指標（KPI）</th><th>KPIの目標値</th><th>結果</th></tr>
<tr><td>外部顧客の視点</td><td>個々の対象の意思を尊重した看護の実践</td><td>患者満足度調査の向上</td><td>看護師の接遇に関する項目の評価値が前年度以上</td><td>入院患者満足度調査項目
1 礼儀と敬意をもって接したか
2 話を注意深く聴いたか
3 分かりやすい説明をしたか
4 Nsコール後直ぐに援助が受けられたか
<table>
<tr><th></th><th>2022年</th><th>2023年</th><th>増減</th></tr>
<tr><td>項目1</td><td>94%</td><td>97%</td><td>+3%</td></tr>
<tr><td>項目2</td><td>95%</td><td>98%</td><td>+3%</td></tr>
<tr><td>項目3</td><td>93%</td><td>95%</td><td>+2%</td></tr>
<tr><td>項目4</td><td>76%</td><td>79%</td><td>+3%</td></tr>
<tr><td>平均</td><td>89.5%</td><td>92.3%</td><td>+2.8%</td></tr>
</table>
＊「常に」「大体」の割合を合算</td></tr>
<tr><td rowspan="3">内部プロセスの視点</td><td rowspan="3">個々の対象の意思を尊重した看護の実践</td><td>各部署の意思決定支援への看護師の介入</td><td>入院時に患者（家族）の思いについて記録</td><td>カルテ監査結果
前年度：83.58%　　今年度：82.14%</td></tr>
<tr><td>患者の個別性にそった継続看護（医療）の記録</td><td>継続看護が必要な患者のサマリーに個別性を配慮した記載
→外来看護に継続された件数：昨年より増加</td><td>病棟から外来へ引き継がれたケース（内科症例）
2022年度：78件　　2023年度：71件</td></tr>
<tr><td>倫理コンサルテーションチームとの連携の実施</td><td>コンサルテーション件数15件以上
（各部署1件以上）</td><td>3件</td></tr>
<tr><td rowspan="3">学習と成長の視点</td><td rowspan="3">個々の対象の意思を尊重した看護の実践</td><td>「意思決定支援の指針」周知と活用状況</td><td>スタッフ全員
周知：100%
活用：100%</td><td>質委員会で5月に集計したアンケート結果
・初めて「意思決定支援の指針」を読む：79.6%
・活用したことがある：5.8%
→委員の働きかけで周知はできたが、全スタッフの活用には至っていない</td></tr>
<tr><td>カンファレンスの持ち方の検討</td><td>オンライン研修「チームを成長させるカンファレンスの進め方」部署責任者の視聴100%</td><td>部署責任者の視聴93%
14人／15人</td></tr>
<tr><td>倫理コンサルテーションまでの取り組みの具体化</td><td>具体的な取り組みの報告
（各部署1件以上）</td><td>3件</td></tr>
</table>

（2）的確な判断に基づく安心安全な看護の提供

<table>
<tr><th colspan="2">各視点の戦略目標</th><th>重要業績指標（KPI）</th><th>KPIの目標値</th><th>結果</th></tr>
<tr><td>外部顧客の視点</td><td>的確な判断に基づく安心安全な看護の提供</td><td>看護師の関わりによるレベル3a以上のアクシデントの減少</td><td>前年度より減少</td><td>前年度より64件増加
<table>
<tr><th>レベル</th><th>2022年度</th><th>2023年度</th></tr>
<tr><td>3a</td><td>212</td><td>264</td></tr>
<tr><td>3b</td><td>35</td><td>49</td></tr>
<tr><td>4</td><td>1</td><td>0</td></tr>
<tr><td>5</td><td>2</td><td>1</td></tr>
<tr><td>計</td><td>250</td><td>314</td></tr>
</table>
転倒転落アクシデントのみ
19件増加
2022年度：39件　　2023年度：58件
看護師の総報告件数：1,827件
<table>
<tr><td rowspan="3">確認を怠った</td><td>総数：1,182</td></tr>
<tr><td>3a：125</td></tr>
<tr><td>3b：26</td></tr>
<tr><td rowspan="3">判断を誤った</td><td>総数：1,007</td></tr>
<tr><td>3a：173</td></tr>
<tr><td>3b：30</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td rowspan="2">内部プロセスの視点</td><td rowspan="2">的確な判断に基づく安心安全な看護の提供</td><td>確認行為の怠り・判断不足の背景の分析</td><td>必要なケースに100%実施</td><td>看護部セーフティマネージャー部会で必要なケースについて検討した</td></tr>
<tr><td>チーム医療で多職種を交えた事例検討の実施</td><td>必要なケースに100%実施</td><td>2-4、2-5病棟で開催</td></tr>
</table>

各視点の戦略目標		重要業績指標（KPI）	KPIの目標値	結果
学習と成長の視点	的確な判断に基づく安心安全な看護の提供	看護マニュアル、看護提供方式の現状把握と見直し	看護マニュアル： インシデントに関するマニュアルの見直しが必要なケース100％ 看護提供方式： 必要なケース100％	マニュアルの見直し：19件 看護提供方式：時間外調査アンケートのアンケート結果より、動線・記録・カンファレンスのあり方などの課題が明らかになった
		心理的安全性についての学習会	1回以上/年	9月に2回実施 9/21・/25管理研修開催　45名参加 テーマ「心理的安全性の高い職場をつくろう」
		フィジカルアセスメント、臨床推論の学習会	1回以上/年	学習会としては未実施 看護部セーフティマネジャー部会内で事例検討 救急看護認定看護師による心電図モニターラウンド

(3) 生き生きと働き続けられる看護業務の見直しと改善

各視点の戦略目標		重要業績指標（KPI）	KPIの目標値	結果
内部顧客の視点	生き生きと働き続けられる看護業務の見直しと改善	育児短時間制度の利用者の夜勤の協力	夜勤可能な勤務者の割合が前年度以上	昨年度との比較 病棟勤務者 / 夜勤従事者 / 夜勤可能な勤務者の割合 昨年9月：237人 / 198人 / 83.54% 今年9月：246人 / 199人 / 80.89% 昨年3月：228人 / 196人 / 85.96% 今年3月：235人 / 197人 / 83.82% ※病棟勤務者はパートも含む
		業務改善による時間外勤務時間の減少	時間外勤務時間の昨年度より減少	前年度：29,449時間　今年度：27,414時間 →2,035時間削減
		健康保持としてメンタルヘルスケアができる	ストレスチェック結果の評価が昨年度以上	全体：15部署 総合評価：120以上と高い部署 2022年度：11部署 / 2023年度：11部署 前年度よりストレス値が上昇している部署は8部署、改善している部署は6部署、同値は1部署であった。 ストレス度が1番低い値：99
内部プロセスの視点	生き生きと働き続けられる看護業務の見直しと改善	キャリアの発展のための部署異動の実施	2回/年及び必要時	必要時実施　2回/年
		時間外勤務管理の実施	時間外減少につながる業務改善の対策必要なケース100％	・日勤16時以降の緊急入院 ・入院時の書類 ・記録による残業 ・内服薬のセット ・医師の指示待ち ・朝早い出勤が退職者の離職理由になっている
		メンタルヘルスに配慮した看護師の健康管理対策の実施	対策の実施	メンタルで休職者：5名 必要時対応
学習と成長の視点	生き生きと働き続けられる看護業務の見直しと改善	キャリアの発展のための部署異動の仕組み作り	計画の立案達成	計画立案
		看護業務の見直し具体化	毎月1件以上	主な業務改善：9件 ・「宿・日直業務の内規」の改定 ・患者逝去時の対応 ・責任者ラウンドカルテ記載について ・夜間休日の緊急カテーテル検査時の看護師の確保方法 ・夜勤勤務者の色マスク ・看護部 朝会の廃止（各部署の朝カンファレンス開始時間の検討・変更） ・定期注射のシングルチェック ・看護サマリー作成対象者の変更 ・朝の情報収集項目の整理　など
		メンタルヘルスに配慮した看護師の健康管理対策についての学習会	学習会1回/年	未実施

3. 今後に向けて

【2024年度看護部BSCの考え方】

2023年度看護部BSCで目標が達成できず課題が残った取り組みを継続し、2024年度の看護部BSCは優先的に取り組む必要がある事項を重点目標とした。看護の基本である「相手の立場になって考える」患者中心の看護と職員同士も思いやることを心掛け、看護方針である「やさしさ添えて　いついかなるときも患者と共に」を実感できる活動としたい。

【2024年度 看護部重点目標】

（1）個々の対象の意思を尊重した倫理観と根拠に基づく看護の実践
（2）組織の一員として看護を効率的・効果的に行うためのマネジメント能力の向上
（3）生き生きと働き続けられる看護業務の改善と職場環境の見直し

【各目標の戦略ストーリー】

（1）個々の対象の意思を尊重した看護の実践

当院の基本方針1にある「その人らしさ」を尊重した患者中心の医療の提供や、看護部の基本方針1にある患者を尊重して心のこもった看護を提供するためには、看護師の倫理観と根拠に基づく看護の実践が重要となる。

今年度の診療報酬改定の内容にチームを形成して行動制限を最小限にする取り組みがある。当院では「緊急やむを得ない行動制限に関するマニュアル」が2005年以前から存在し、現在では各病棟で行動制限の解除に向けてのカンファレンスが定着している。しかし、認知症患者の行動制限は安全が優先されるケースが多く、身体抑制や離床センサーが使用され、カンファレンスの記録内容には患者・家族の不安を受け止めた内容の記載があまりみられないのが現状である。マニュアル内にある『やむを得ず行動制限をおこなう場合の手順』『実施における注意点』の項目をよく理解し、根拠に基づく実践をすることが患者の安心を得られる看護の提供につながると考える。

看護師は対象の思いを引き出し、望みを叶えるために必要な場面で意思決定支援を行い、患者満足を向上させる重要な役割がある。安心が得られる退院支援として、十分な選択肢や具体的な支援についての説明が重要であり、施設訪問・退院前・退院後の訪問なども行い退院支援の活動を発展させたい。

また、看護ケア場面における看護師の倫理観の向上は、倫理的問題を感じたときに検討されることと学習の繰り返しによって育成される。倫理コンサルテーションと連携し、事例検討からの学びも倫理観の向上につなげたい。

（2）組織の一員として看護を効率的・効果的に行うためのマネジメント能力の向上

高齢化率のピークを間近に控え、2023年度日本看護協会は「看護師の生涯学習に関するガイドライン」を公表した。医療・看護のケアを必要とする人が増加する一方、生産年齢人口が急速に進む中、就業状況や活動の場にかかわらず看護師として活動するために新たな4つの能力が示された。より自律的に学び、個々のスキルを高め質の高い看護を提供し続けていくかが問われている。

今年度は、４つの能力のうちの1つである「リーダーシップとマネジメント能力」に着目してその能力の育成にあたりたい。この能力は、ケアマネジメントという点から、看護管理者だけでなく誰もがもつべき能力であり、患者への効率的で効果的な看護ケアの実践のためには欠くことのできない力と言われている。新人看護師で言えば、助言を受けながら受け持ち患者の状態把握をすると同時に、時間内に予定された業務を遂行していくが、現在はケア計画の立

案やタイムマネジメントまでには及んでいない。移行が進められているセル看護提供方式においては、こうしたケアマネジメント力が必要となることから、能力獲得に向けた取り組みを進めたい。また、適切なケアマネジメントのためには、看護チームの一員として自身が果たすべき役割や、看護補助者との連携・協働といった組織のあり方についても考えなければならない。

今年度は、看護師個々が、ケアマネジメント能力の必要性が理解でき、良質なケアを提供するための能力の獲得や向上を目指したい。

(3) 生き生きと働き続けられる看護業務の改善と職場環境の見直し

時間外（前残業、後残業ともに）は、何の利にもならない。今年度の時間外勤務時間についての評価は「マネジメント能力」の評価に委ね、昨年度に引き続き業務改善に取り組み、働きやすい職場環境を目指す。安心できる職場環境下では、楽しい気持ちでモチベーションアップができ、大変さは疲弊感ではなくやりがいを感じることで、生き生きと働き続けられると考える。円滑なコミュニケーションで風通しの良い職場環境を看護師１人ひとりが感じ、看護師として誇りをもって働ける環境を目指し整備する。

看護提供方式は、PNSのメリットも取り入れながら基本的にセル看護提供方式に変更をするが、現場の課題を考慮しながら適切に進めていきたいと考えている。改善した業務は、問題が発生すれば、繰り返しの検討が必要である。何もやらなければ何も変わらないため、「まずはやってみよう」の心がけで現場に受け入れられるよう業務改善を進めていく。また、患者への観察不足や転倒転落などは患者の傍にいることで防止できると考える。それは患者安全にも影響するため、発生したアクシデントの内容を検証し再発防止策を行うと共に、件数の推移をみて評価していく。何のために患者の傍にいるかをスタッフが理解し、看護の本質に触れることを実感し、看護のやりがいにつながる取り組みが重要と考える。

職員のマンパワー不足は充分に回復していない。キャリアの発展のために部署異動を実施し、メンタルヘルス対策、中途採用者の雇用に引き続き対応することで、人員の確保に努める。職員同士も「相手の立場になって考える」思いやりのある看護部でありたい、全スタッフが支え合う意識を持ち成果につなげたいと考える。

目標達成に向けて、看護部全体で取り組む。

栄養サポート室

1. 一年の振り返り

当院では、個人個人の状態に合わせた食事内容を提供しており、その嗜好調査結果、意見や要望を把握し、今後に活かせるよう努力している。また、患者の栄養管理をはじめ、NSTや栄養指導といった「臨床栄養管理」について、前年（2022年度）と比較し、その実績を報告する。

①嗜好調査結果　満足～普通の割合　79%（2022年度　71%）

②NST件数　2,865件（2022年度比　95%）

③栄養指導件数（入院・外来・集団、透析予防）5,301件（2022年度比　102%）

④早期栄養介入管理　1,896日実施（2022年度比　120%）

〈専門・認定管理栄養士資格取得状況〉

・日本臨床栄養代謝学会	NST専門療法士	1名
・日本臨床栄養代謝学会	臨床栄養代謝専門療法士	1名
・日本糖尿病療養指導士認定機構	糖尿病療養指導士	5名
・日本病態栄養学会	病態栄養専門管理栄養士	2名
・日本栄養士会	食物アレルギー栄養士	1名
・日本循環器学会	心不全療養指導士	1名

2. 活動実績

NST委員会より、1年を通して、全職員に対し勉強会を実施。

	日程	テーマ内容	担当者	参加人数
①	6/7	NSTとは？『食べること』の大切さ、必要カロリーの算出	神谷 Dr	19名
②	7/5	経腸栄養の手技　注意点と下痢などへの対策	嚥下（小野 CN）	22名
③	8/9	経腸栄養剤及び付加食品について	管理栄養士（濱﨑）	18名
④	9/6	化学療法における副作用に対し期待される薬	薬剤師（谷岡）	16名
⑤	10/4	認知症患者の食支援	認知（佐野 CN）	23名
⑥	11/1	CDI（Clostridioides difficile infection）について	感染（齋場 CN）	23名
⑦	12/6	がんと栄養	がん（澤野 CN）	23名
⑧	2/7	褥瘡と栄養管理について	褥瘡（森 CN）	15名
⑨	3/13	高齢者とサルコペニア	リハビリ（野崎）	19名

3. 今後に向けて

昨年度より、認定や専門分野における有資格管理栄養士が増えたことで、多職種からのさらなる期待や信頼を得ていきたい。早期の重症患者への栄養介入を充実、またGLIM基準に基づいた低栄養患者の早期診断、アセスメントが行えるよう、全病棟1名以上の管理栄養士の配置を目指し、ベッドサイドで活躍できる管理栄養士を育成する。

認知症疾患医療センター

1. 一年の振り返り

1992年に認知症外来を立ち上げて20年、2012年に名古屋市から認知症疾患医療センターの指定を受けて10年が経ち、2023年は新たな時代の始まりであった。設備や人員が限られているだけでなく、メンバーも高齢化していくなかで、単純に規模を拡大するだけの方向性は現実的ではない。そこでこれまで長年培った機能をさらに熟成して、他の疾患医療センターにはない特徴を伸ばすことを目標とした。当センターの強みは、総合病院である、交通の便がよい、名古屋鉄道という地元密着の企業病院である、長年地域の認知症医療に関わってきた実績があり西区・名古屋市・愛知県など行政とのつながりが強い、他の病院に先駆けて認知症の身体疾患入院支援の実績がある、等である。これらを活かした形で、若年性認知症、認知症検診、認知症サポートチームを診療重点課題とした。また、2023年末にアルツハイマー病の疾患修飾薬が認可されたが、院内体制を遅滞なく整備し必要とされる患者へいち早く提供することができた。

2. 活動実績

外来実績は、新患患者数 842（新規若年性認知症27）、再診のべ患者数 4,920、専門医療相談 3,494、神経心理検査 1,297、名古屋市もの忘れ検診 85、運転免許関連診断 53、名古屋市おでかけあんしん保険 42であった。

対外的には、西区認知症初期集中支援チームチーム医、西区介護保険審査会委員、名古屋市若年性認知症支援ネットワーク委員長、愛知県認知症地域医療研修検討委員会委員、西区認知症家族教室講師、愛知県認知症の人と家族の会支援プログラム協力病院、「あいち認知症パートナー企業」として名古屋鉄道が登録した。

院内活動としては、看護部の協力のもと、病院公認の「認知症・せん妄」リンクナースの育成、認知症ケアマニュアル改定、ポケット版を作成した。薬剤部により、院内で使用される睡眠・せん妄治療薬剤の調査とベンゾ・非ベンゾ薬の中止の試みがなされ結果的に眠剤として院内ではGABA作動薬はほとんど使用されない状況が確立された。リハビリテーション科では認知症の運動療法・言語療法実施患者数の増員、等さまざまな進捗があった。

レケンビは2024年6月末現在14名の患者が2週間に1度の点滴治療を受けている。これまでのところ、ARIA発症など重大な問題は発生していない。

3. 今後に向けて

今年度は、アルツハイマー病の疾患修飾薬使用を含めた認知症予備軍（軽度認知障害）への積極的関与を目標としたい。具体的には名古屋・尾張中部・あまの3医療圏にまたがる新たな認知症地域連携の構築、名古屋市若年性認知症ネットワーク会議の人脈を活かした若年性認知症対応強化、名古屋市ものわすれ検診への積極的関与を中心に活動を行いたい。

糖尿病センター

1. 一年の振り返り

新型コロナウイルス感染症パンデミックの影響から少しずつ回復しつつある中で、診療体制も徐々に通常に戻りはじめている。感染防止策を継続しつつ、患者の健康と安全を確保するための努力を続けている。過去の課題を踏まえ、柔軟かつ効果的な診療体制を整え、日々の改善に努めている。

患者の個別ニーズに合わせた治療計画を引き続き立案し、日常生活におけるサポートと指導を行っている。また、教育入院プログラムを通じて、糖尿病に関する知識とセルフケアの重要性について理解を深める機会を提供している。これらの継続的なサポートと教育により、患者のQOL向上と合併症予防に貢献し続けている。

2. 活動実績

糖尿病教室	155件/年（加算48件、非加算107件）
透析予防外来	731件/年
フットケア	425件/年

3. 今後に向けて

多方面連携による治療と教育の充実

当センターは多職種連携による治療と教育に力を入れている。来年度もさらに連携を強化し、医師、看護師、薬剤師、栄養士などの専門職が緊密に連携することで、糖尿病患者に対する総合的なケアを提供する。患者の個別ニーズに対応するため、多様な治療法や教育プログラムの充実を図る。また糖尿病診療に精通したスタッフの育成のため、CDJやフットケア等の資格取得を進めると同時に、糖尿病センターへの新規スタッフの増加をめざす。

地域との連携と啓蒙活動の強化

地域との連携をさらに深め、糖尿病に対する理解を広めるための啓蒙活動を積極的に展開する。健康診断やセミナー、イベントなどを通じて、地域の方々に健康づくりの重要性を伝える。それによって、糖尿病による合併症予防の重要性を共有する。

2024年9月8日に当院主催の糖尿病担当者セミナーを企画しており、それに関しても一丸となって取り組む所存である。

関節鏡・スポーツ整形外科センター

1. 一年の振り返り

新型コロナウイルス感染症の影響がほぼなくなり、スポーツ活動が活発化したことで、スポーツによる外傷や障害による受診が増加した。関節鏡手術は外部医師の手術が減少した影響で微減した。

2. 活動実績

関節鏡手術件数は肩 174件、肘 44件、膝 110件、足 4件、総数 328件であった。

肩関節鏡手術においては、新たな手術として完全関節鏡下筋前進術を行うようになった。

名古屋オーシャンズ（フットサル）、ジェイプロジェクト（社会人野球）のチームドクターとしての活動を継続した。

当院の医師による関節鏡手術だけでなく、名古屋スポーツクリニックや名古屋市立大学病院整形外科の医師による手術は引き続き行われている。

3. 今後に向けて

ポストコロナとなり、受診希望者が増加している。これに対応できるよう、逆紹介を増やしたり、外来を効率よく行うために医療事務による補助を活用する。

透析センター

1. 一年の振り返り

当院の当センターは、2019年7月の開設当初から9床で運用しており、その9床にて、月水金朝シフト・月水金昼シフト・火木土シフトの3クールで、当院への通院維持血液透析患者と、他の疾患（肺炎・骨折・脳血管疾患・冠動脈疾患等）で入院を必要とするようになった他院での維持血液透析患者を受け入れている。

2023年度の振り返りとして、2023年度初めは16名だった通院維持血液透析患者が、2023年度末にはリハビリ転院等で14名となった。

入院前から他院で維持血液透析を行っている入院患者は多少増減があり3名～10名で経過しているが、総人数延べ56名の入院の透析患者を受け入れた。

2. 活動実績

2023年度中は、新規血液透析導入患者は、17名だった。また、入院前から他院で維持血液透析を行っていて入院中のみ血液透析を引き継いだ入院患者は39名だった。

全9床のため、一時期に10名の入院患者がある場合は、ベッド数の関係上緊急入院をお断りすることが多々あった。

3. 今後に向けて

2019年にベッド数9床で立ち上げた当センターだが、年間20名前後の新規透析導入患者があり、さらに透析患者の入院が重なるときには10名以上の入院患者となった。そのため、透析患者の入院を止めざるを得ないときもあり忸怩たる思いをしていた。血液透析患者の入院のお断りをなくすためにさらなるベッドの拡充を計画している。

また、当院で導入してそのまま当院に残って維持血液透析の継続を希望される方には、最良で最新の維持血液透析を提供できるように努めていくために、全台OnlineHDF可能としていたり、必要な方3名ほどには1回6時間透析の週18時間透析で長時間透析を施行している。今後もさらに最良で最新の良質な透析療法の提供を行っていきたいと考えている。

中耳サージセンター

1. 一年の振り返り

当センターを開設して4年経過した。日本耳科学会認定の耳科手術指導医制度認可研修施設として愛知県下唯一の中耳サージセンターを標榜して活動を行った。耳科手術指導医である部長の植田医師を中心に、耳鼻咽喉科の小川医師、近藤医師および言語聴覚士の小柳と堀田で活動した。主領域である耳科手術では愛知県下有数の症例数を経験出来た。また診療に必須である聴覚検査および聴覚リハビリを言語聴覚士が担当し成果をあげた1年であった。

2. 活動実績

耳科手術全体の件数は255件で、主な手術は鼓室形成術 89件、アブミ骨手術 13件、人工内耳植込術 1件、鼓膜形成術 18件、リティンパを用いた鼓膜穿孔閉鎖術 18件などであった。補聴器外来にて、言語聴覚士を中心に補聴器装用を指導し28人が補聴器装用開始した。学会活動では2つの耳鼻咽喉科関連学会において座長を務めた。また、依頼原稿を含め2編を論文化した。

3. 今後に向けて

今後もより多くの症例を積み重ね、収益を上げつつ得られた経験・知見を生かしてより良質な医療を提供したい。

医療支援センター

1. 一年の振り返り

地域包括ケアシステムや地域医療連携が進む中、名古屋市西区唯一の急性期総合病院として、地域に密着した全世代型急性期医療を提供していくという当院の使命は変わらない。当センターは、地域連携・入退院支援・総合相談・病床管理を担い活動している。治療を必要とする患者の受け入れや急性期治療を終えた患者が在宅で生活を行うまでの期間調整や、住み慣れた地域で生活ができるよう院内外の多職種と連携を図り支援を行っている。2024年度は診療報酬改定があり入院基本料や入退院支援加算の見直しがある。これまで以上に、当センタースタッフ一人一人が地域貢献の意識を高め、やりがいを実感できるよう、心理的安全性が高い職場環境の整備を行い、取り組む必要がある。当センターは病院経営にも参画する部署である。そのため効果的な退院支援を実施し、スムーズな患者受入ができることや、新規入院患者数・救急入院件数の増加を意識した対応を引き続き行っていくことが必要と考える。

2. 活動実績

	2022年度	2023年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
退院患者総数	7,803	8,185	677	675	687	746	747	704	623	631	766	586	667	676
算定率	平均50.8	56.2	50.3	55.0	61.6	59.0	56.8	59.3	60.6	55.5	57.2	51.5	55.2	53.0
入退院支援加算１（700）	3,962	4,603	341	371	423	440	424	418	374	350	435	301	368	358
＋連携パス利用者	128	130	11	8	7	10	11	10	10	18	14	11	13	7
入院時支援加算（230）	437	445	37	49	40	34	41	45	50	34	22	27	37	29
介護支援等連携指導（400）	175 (22)	178 (38)	12 (3)	9 (1)	20 (4)	18	10	17	21 (8)	16 (5)	11 (4)	9 (1)	12 (2)	23 (10)
退院時共同指導料2（400）	146 (9)	142 (33)	9 (4)	11 (3)	14 (2)	10	10	12	16 (6)	7 (3)	15 (5)	11	11 (2)	16 (8)
保険医共同指導加算（300）	6 (2)	6 (2)	1	0	1	0	0	0	0	2 (1)	0	1	0	1 (1)
多機関共同指導加算（2000）	44	38 (9)	3 (2)	4 (2)	0	1	3	5	2	1	6 (2)	5	2	6 (3)
退院前訪問（580）	7	9 (1)	1	1	0	0	0	0	0	1	0	1	3	2 (1)
退院後訪問（580）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地域貢献（研修等）	10	10	1	1	1	1	0	0	2	1	2	0	0	1
点数	3,083,170点	3,520,390点	35,203,900円											

3. 今後に向けて

2023年度8月1日愛知県より当院は「紹介受診重点医療機関」となり、今まで以上に各関係部署との連携強化に努めていく必要がある。診療所からの紹介、救急要請など治療を必要とする患者を受け入れる前方支援の質の向上に努めること。そして、治療を終えた人々が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けていける後方支援体制の構築において当センターが参画できる仕組みを作り上げることが重要であると考える。当院のキャッチフレーズにある「人に寄りそう　命と向き合う」より、対象の思いを引き出し、希望通りになるように必要な場面で意思決定支援を行い、安心が得られる退院調整を行うことが重要であるため、多職種協働を行い、患者が不利益とならない入退院支援を提供していきたい。そして今年度は、退院前・退院後の訪問・施設訪問などプライマリーナース又は認定看護師と共に退院支援活動の拡大も行っていきたいと考えている。

ME管理室

1. 一年の振り返り

2023年度は欠員無く7名で各業務（＝透析、手術室、内視鏡、14、ラウンド、ME管理室）に従事した。透析業務に関しては透析センターにシャント観察用のエコーが配置され、シャント穿刺やシャントトラブルの早期発見の機会を得ることが出来た。14業務においては例年通り適宜CHDFや緊急透析、その他急性血液浄化業務を行うと共に、14専任者による人工呼吸器開始時の設定への関わりや勉強会を随時行った。手術室業務に関しては外科でダヴィンチ症例が開始となり医師・看護師と連携して大きなトラブル無く経過できるよう助力した。内視鏡業務に関しては中途入職者の独り立ちが完了し検査介助も看護師と協力することでスムーズに行えるようになったと評価できる。ME管理室業務については機器管理システム更新に向けて機器選定に着手しMEだけでなく在庫状況の確認やマニュアル参照など、各部署が利用しやすいようにWEB参照機能を有する機器管理システムを導入することとなった。

2. 活動実績

（1）透析業務　：機器操作、穿刺介助、患者管理等

・透析実施延べ回数（透析センター）：2,857回

・透析実施延べ回数（HCU）　　：24回

（2）急性血液浄化業務　：機器操作、患者管理等

・CHDF延べ回数　　：32回

・血漿交換延べ回数　　：9回

・腹水ろ過濃縮延べ回数：49回（関連物品納入実績より算出）

（3）手術室業務　：日常点検（手術件数　3,176件/年）

・麻酔器点検回数　：1,628＋α回（全身麻酔件数より算出）

・モニター点検回数：3,150回（手術件数の内、緊急手術を除く）

（4）内視鏡業務　：使用前点検、検査介助　等（検査件数　7,482件/年）

・ME検査介助件数：738～1,476件（3～6件/日/人として算出）

（5）ラウンド業務　：使用前点検、使用中点検　等　（年間平日　246日/年）

・対象機器：除細動器、AED、人工呼吸器、モニター、輸液ポンプ等

・対象部署：全病棟、外来（内科、救急等）

・1日あたりの対象部署：20～28部署

・機器点検実績：除細動器（～3,444回/年）、AED（～2,214回/年）等

（6）人工呼吸器業務

・HCU人工呼吸器使用患者への介入：63例（MEラウンド実績による）

・使用中点検延べ回数　　：582回（HCU、一般病棟での使用　合算）

（7）定期点検

・実施回数：250回

・対象機器：輸液ポンプ・シリンジポンプ・除細動器・生体モニター等

（8）取扱機器

・92機種　965台（ME機器管理システム　登録台数より算出）

3. 今後に向けて

ME管理室としては昨年度に引き続き次の4点を重点取組項目として掲げる。

（1）業務拡大　（2）取扱機器の増加

（3）安全な医療機器の提供　（4）収益への貢献（経費削減への取組）

（1）については、タスクシフトにこだわらずに働き方改革につながるような業務内容を部署内で精査協議したい。

（2）については、一年の振り返り・活動実績の項目で提示したように新たな機器管理システムが導入されたことによって、それまでのシステムに比べ利便性が向上した。システム性能を有効活用し順次取扱機器を増やしていくことを目標とする（100機種1000台目標）。

（3）については、今まで定期点検が行われていなかった電気メスのような機器についても定期点検を実施し、重大なインシデント・アクシデントを未然に防ぐことを目標とする。

（4）については、関連物品の見直しや定数の見直し、ME内での一次修理対応の増加で点検費用の削減に努めたい。

安全管理室

1. 一年の振り返り

2022年度より報告書確認対策チームを設置した。それにより、画像診断報告書・病理診断報告書の確認漏れによる診断または治療開始遅延の防止への取り組みを強化した。2023年度は、特に救急外来における研修医オーダーの画像診断報告書確認の仕組みの検討を重ねた。また、目的以外の臓器所見に対する迅速な対応にも放射線科技師と協力してすすめてきた。

2023年度は、6月に受審した病院機能評価をはじめ、コロナ禍明け初めての東海北陸厚生局による適時調査、名古屋市西保健センターによる立ち入り検査など、様々な視点から外部の方々に評価していただき、マニュアルの見直しや現場での遵守状況の確認、今後の課題を明確にする機会となった。

2. 活動実績

【インシデント・アクシデントの把握】

CLIP報告書の確認・承認　　報告件数2,247件/年

【院内研修】

入社時研修、安全管理研修会（2回/年）、医療安全研修会（2回/月）

【マニュアル見直し及び改訂】

安全管理指針・安全に関するマニュアル

【院内ラウンド】

医療安全管理者ラウンド（不定期）、セーフティマネジャーラウンド（1回/月）

【委員会の開催】

安全管理委員会（1回/月）、セーフティマネジャー委員会（1回/月）

院内医療事故調査委員会（9症例）

【地域連携】

I-I連携　名城病院

I-II連携　済生会リハビリテーション病院

【医療安全情報の発信】

JQ（1回/月）、MSC（1回/週）、テクノス通信・PMDA（不定期）

あんぜんNews・医療事故ニュース（1回/月程度）

3. 今後に向けて

日々の活動を怠らず、現状把握は現場での確認を行う。また、再発防止は現場で実施可能な対策を検討する。西区唯一の総合病院として、安心・安全な医療の提供に努めていきたい。

感染制御対策室

1. 一年の振り返り

新型コロナウイルス感染症が2023年5月に5類相当となり、感染症としての社会的な位置付けが変わったことで、人々の行動も拡大した。しかし新型コロナウイルス感染症の感染様式自体が変わったわけではないため、免疫力の低下した患者を受け入れる医療機関としては、必要な感染対策の継続が求められた。院内外の感染状況やガイドラインを踏まえて対応を協議し、運用の策定を行った。

また、前年に続き地域連携をより強化し、新型コロナウイルス感染症だけでなく、サル痘や麻しんなど新興・再興感染症を含めた感染症全般について、行政や地域の医療機関と検討の場を設けた。

2. 活動実績

【地域連携】

Ⅰ-Ⅰ連携：名城病院（相互ラウンドを実施）

Ⅰ-Ⅲ連携：済生会リハビリテーション病院（年4回のカンファレンス実施）

外来感染対策加算：36施設（年2回のカンファレンス実施、訪問指導、抗菌薬使用状況確認）

西区病院間感染症対策情報交換会：1回／3ヶ月

【サーベイランス】

耐性菌サーベイランス（JANIS登録）、デバイスサーベイランス（CLABSI,CAUTI,VAE）

【抗菌薬適正使用・耐性菌対策】

ICT／ASTラウンド、環境ラウンド1回／週実施（延べラウンド患者：642名）

抗菌薬使用状況確認（JSAIPH)、抗菌薬適正使用研修（医師部会2回、リンクナース会1回）

【院内研修】

新人研修、全職員対象研修（年2回）、実践臨床講演会（年2回）、吐物処理演習

【マニュアル改訂】

Ⅴ：環境リネン（修正・追加）、Ⅷ：血液培養手順（追加）

Ⅹ：針刺し・切創事故、血液・体液汚染事故の対応（修正・追加）

【感染対策活動】

手指消毒剤の使用量調査、手洗いキャンペーン、手洗いスタンプラリー、水回りの環境調査

【職業感染対策】

針指し・体液曝露事故対応、抗体値確認、ワクチンプログラム（HBV、MMRV、インフルエンザ）

【新型コロナウイルス対応】

院内発生、職員対応、南部医療圏COVID会議：1回／3ヶ月

【院外活動】

感染対策のための実地研修としてグループホームへの訪問指導

3. 今後に向けて

新型コロナウイルス感染症のような新興感染症や大規模災害など、通常医療を揺るがす危機的状況がいつ発生するか分からない。新型コロナウイルス感染症への対応が一旦落ち着いた今、平時の感染対策の実践状況や、院内の環境、組織体制を見直し、課題に対して速やかに対応していく。

研修管理室

1. 一年の振り返り

今年12月に卒後臨床研修評価機構の訪問調査を受審し、4年間の認定を受けることができた。日頃から初期研修にご協力いただいている指導医や上級医のほか、メディカルスタッフの皆様に感謝申し上げたい。また、精神科や産婦人科、地域医療の研修依頼先である協力施設の先生や関係者の皆様にも、日頃から親身になってご指導いただいておりますことに、厚く感謝申し上げる。

受審を機に現在の取り組みや運用などの点検を進める中で、従来の不具合を自主的に改善できたことや、評価機構からの改善要望に対応することによって、より充実した初期研修を実施できる環境が整備できたと考えている。

その他、産婦人科の院外研修について、西部医療センターの受け入れ中断を受けて、2024年度より研修先を東部医療センターへ変更することになった。長きに渡り初期研修にご協力をいただいた西部医療センターの先生方と関係者の皆様に対して、感謝申し上げる。

また研修管理委員会の委員として力を尽くしてもらった市原指導医と西尾指導医は、世代交代の観点から前田指導医と内田指導医に交代する運びとなった。なお、7月に退職した菱田指導医の後任は長谷川指導医が着任している。

2. 活動実績

2023年度版の臨床研修指導ガイドラインが発表されており、ガイドラインに沿った内容への見直しと、協力施設の一部変更に対応するため、既存プログラムを変更した。

また、研修規約についても評価機構の改善指導を受けて、適切に改正した。今後、院内の診療科の新設や業務内容などの状況を踏まえ、適宜更新していく。

その他、2024年度入職予定の医学生をリクルートするため、2023年5月6日にマイナビレジデント東海北陸エリア合同説明会に出展し、当院ブースへ59名の見学者が訪れた。イベント出展のほか、病院見学では延べ130名の医学生を受け入れ、結果として研修医募集定員7名を採用することができた。各科先生方および研修医のリクルート活動の賜物であり、とても嬉しく思う。

また初期研修の重要事項を決定する研修管理委員会を3回、変更などの提案を院内で検討する研修管理小委員会を5回、指導方針を確認する指導医会議を1回開催した。

3. 今後に向けて

2023年度に初期研修を修了した研修医6名のうち、1名が整形外科へ専攻医として残ったが、昨年の4名に比べて寂しい結果になった。

今後、当院の活性化のためにも若い医師の力が必要であり、1人でも多くの修了者が後期研修として当院で勤務したいと思うことができる環境整備を進めていきたいと考える。また診療科においても、今まで以上に魅力ある研修指導を実施することで、若手医師の獲得に努めていくことができたら幸いである。

看護専門学校

1. 一年の振り返り

コロナ禍4年目の4月、新入生58回生41名の入学式を、3年ぶりに保護者も参列のもと執り行った。

5月、新型コロナウイルス感染症が感染症法第5類へ移行されたことに伴い、学校生活での制約も徐々に緩和した。グループ学習、グループディスカッション、体験学習等、学生の能動的な学習への参加を取り入れた教授・学習法であるアクティブラーニング型授業を対面で行うことが増えていった。また、看護師に必要な実践能力を習得する上で不可欠な臨地実習も3年ぶりに学内実習に置き換えることなく全て臨地で実施することができた。

8月にオープンキャンパス・学校説明会を開催し、約180名の高校生や社会人が予約制で参加した。

12月、1年生は宣誓式において、これから目標とする看護師像に向けて、また、間もなく始まる臨地実習に向けて自覚を持ち、一人ひとり決意を新たにすることができた。

2月、3年生は国家試験を終え、卒業前看護技術演習などに取り組んだ。

3月、保護者及び来賓の参列のもと、56回生3年生全員卒業式を迎えることができた。

第113回看護師国家試験に56回生全員が合格した。卒業生38名中27名が名鉄病院就職試験に合格し入社した。

2. 活動実績

本校は昭和41年（1966年）、3年課程の看護学校を開設以来、約1,911名の卒業生を輩出している。現在も1学年約40名、3学年120名が在校している。

3. 今後に向けて

看護師養成所を取り巻く環境は、社会全体で解決すべき多くの課題を抱えている。入院期間の短縮化などから在宅医療・外来医療の推進、地域包括ケアシステム構築が進められる中、療養する人々の生活の場の多様化、疾病や健康の概念も変化し、病院完結型から地域完結型に変化してきている。そのような現状において、看護基礎教育3年は短く、4年生化も求められ、看護師養成所は大学が急増している。さらに、少子化が加速し、18歳人口の減少が続いていく。2040年の大学進学者数推計は約51万人で、現在の約80％の規模に減少するといわれている。ただ、現在の全国の看護師養成所の入学者数の半数近くは専門学校であり、多くの地域医療の担い手を輩出している。

それらをふまえて、選ばれる学校となるために、グローバルな視点と対比させながら、名鉄病院と共に地域に根ざした学校としてカリキュラムの中に地域の企業や事業所での実習や見学、体験学習などさらに組み込んでいく。教員の資質向上はもちろんのこと当校の強みである名鉄病院との連携をさらに進めていく。また、加速する18歳人口の減少の中で学生の確保のための具体的な募集対策としては、オープンキャンパスや説明会の充実、高校訪問の訪問エリアや学校数等内容の再検討と実施、ホームページのアクセス数、SNSの登録者数や配信数に関する計画、目標なども視野に今後も活動していきたいと考えている。さらに今後、社会人経験者の入学希望者に対する柔軟な受け入れ体制として、他の分野で働く社会人に対し、その経験に配慮した入試の検討もしていく。

各部門の人員概要

在籍医師名簿

2024年4月1日現在

役　職	氏　名	所　属
病院長	葛谷　雅文	院長室
副院長	小林　裕幸	外科
副院長	岡本　秀樹	内分泌・代謝内科
副院長	竹田　欽一	消化器内科
副院長	土屋　篤志	整形外科
顧　問	細井　延行	婦人科
学校長	西尾　雄司	消化器内科
センター長	植田　広海	中耳サージセンター
部　長	野田　友則	循環器内科
付部長	市原　義雄	循環器内科
付部長	丹羽　清	循環器内科
付部長	杉浦　宏紀	循環器内科
医　長	石濱　総太	循環器内科
部　長	森弘　卓延	透析センター
医　長	大石　恵梨	腎臓内科
部　長	大林　友彦	消化器内科
医　長	濵崎　元伸	消化器内科
医　師	山本　佳奈	消化器内科
医　師	田中　悠	消化器内科
部　長	緒方　良	呼吸器内科
部　長	内田　圭	脳神経内科
医　師	柵木　愛子	脳神経内科
部　長	加藤　千明	血液内科
付部長	佐尾　浩	血液内科
医　長	安田　寛子	内分泌・代謝内科
医　師	井上　沙織	内分泌・代謝内科

役　職	氏　名	所　属
医　師	森　一晃	内分泌・代謝内科
医　師	神谷　高志	内分泌・代謝内科
部　長	渡邉　修大	小児科
医　長	関屋　由子	小児科
医　師	鈴木　このみ	小児科
医　師	稗田　芙蓉太	小児科
部　長	中山　裕史	外科
付部長	鳥居　康二	外科
付部長	加藤　公一	外科
医　師	景山　創	外科
医　長	中村　俊介	外科
付部長	長谷川　一行	整形外科
医　師	窪谷　海星	整形外科
医　師	山内　滉也	整形外科
医　師	辰巳　豪	整形外科
部　長	竹内　洋太郎	脳神経外科
部　長	倉兼　さとみ	婦人科
部　長	森　誉子	皮膚科
医　師	柳瀬　真望	皮膚科
医　師	肥田　大暉	皮膚科
部　長	荒木　英盛	泌尿器科
医　師	花田　いずみ	泌尿器科
医　師	伊藤　有香	泌尿器科
医　師	渡邉　亮典	泌尿器科
医　師	鈴木　知秀	泌尿器科
部　長	成島　雅博	女性泌尿器科
付部長	加藤　久美子	女性泌尿器科
医　師	近藤　泰	耳鼻咽喉科
医　師	浅井　久貴	耳鼻咽喉科
部　長	髙木　智穂	眼科

役　職	氏　名	所　属
付部長	釼持　順也	眼科
医　師	百田　綾菜	眼科
部　長	橋本　篤	麻酔科
付部長	明石　学	麻酔科
付部長	神立　延久	麻酔科
部　長	大橋　一郎	放射線科
部　長	菊池　均	予防接種センター
付部長	永田　俊人	予防接種センター
部　長	満間　典雅	健診センター
部　長	宮尾　眞一	認知症疾患医療センター
部　長	三島　亜紀	救急部
部　長	原田　智子	病理診断科
部　長	佐藤　祐子	中央手術部
部　長	前田　惠子	老年内科
医　長	大村　朋美	老年内科
部　長	中田　誠一	睡眠障害センター

研修医名簿

2024年4月1日現在

役　職	氏　名	所　属
研修医	大谷　有輝	研修管理室
研修医	大野　嵩侃	研修管理室
研修医	加来　勇気	研修管理室
研修医	藤田　怜一郎	研修管理室
研修医	森　悠二	研修管理室
研修医	佐藤　由実	研修管理室
研修医	水谷　真也	研修管理室
研修医	村上　雄一朗	研修管理室
研修医	伊藤　和花奈	研修管理室
研修医	大嶺　雄飛	研修管理室
研修医	岡田　永遠	研修管理室
研修医	藤井　あや	研修管理室
研修医	鐘森　周作	研修管理室

在籍人員数

2024年4月1日現在（単位：人）

職種	職員数	職種	職員数	職種	職員数
医師	68	マッサージ士	0	事務係	9
看護師	359	放射線技師	22	医療事務	63
准看護師	0	臨床検査技師	36	管理係	2
助産師	1	視能訓練士	4	契約看護師	4
保健師	1	臨床工学技士	8	契約ヘルパー	1
看護助手	0	社会福祉士	7	契約 事務	7
看護師見習	0	言語聴覚士	6	契約その他	1
薬剤師	27	公認心理師	2	嘱託医師	25
教師	10	管理栄養士	9	嘱託その他	4
作業療法士	9	栄養士	1		
理学療法士	22	保育士	2	合計	710

学会発表

老年内科

氏　名	学　会　名	演題・発表名	会期・開催地
葛谷 雅文	日本口腔ケア学会 第10回東海口腔ケアフォーラム	認知症患者の栄養管理から見た口腔ケア	2024年3月10日 名古屋
Kuzuya M.	The 4rd Yanbian International Cardiology Symposium (YICS)	Effects of Systemic Administration of Umbilical Cord-Derived Stromal/Stem Cells on Age-Related Sarcopenia - A Basic Study Using a Mouse Model.	2023年8月19日 Yanbian,China
葛谷 雅文	第33回日本老年学会総会	フレイルの多面性と予防ー特に運動・ポピュレーションアプローチについて	2023年6月16日 横浜
Kuzuya M.	IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023	“Overview: Nutritional problems characteristic of older people and their causes and consequences” 【NCGG Sponsored Geriatrics 9, Management of malnutrition and anorexia】	2023年6月13日 横浜
葛谷 雅文	第38回日本臨床栄養代謝学会学術集会	高齢者の食思不振への集学的対応	2023年5月9日 神戸
葛谷 雅文	第45回日本臨床栄養学会総会	サルコペニアへの総合的対策：食事運動療法と薬物治療	2023年11月11日 大阪
葛谷 雅文	Independent Ageing Expo and Convention Aichi Sky Exp	AGEING AND HEALTH	2023年10月14日 愛知
葛谷 雅文	第65回日本老年医学会学術集会	人生100年時代の抗凝固療法	2023年6月18日 横浜
葛谷 雅文	第65回日本老年医学会学術集会	感染症流行期における在宅医療の役割	2023年6月18日 横浜
Kuzuya M.	IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023,Keynote Lecture 5	Integrated care of older people (ICOPE) approach: UN decade of healthy ageing (2021-2030) (Yuka Sumi, WHO).	2023年6月13日 横浜
Kuzuya M.	IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023, Luncheon Seminar 7 (Pfizer Japan Inc.)	Relations with frailty and lower urinary tract dysfunction, particularly overactive bladder. (Masaki Yoshida)	2023年6月13日 横浜
葛谷 雅文	第45回日本臨床栄養学会総会・第44回日本臨床栄養協会総会 第21回大連合大会	地域在住高齢者におけるたんぱく質摂取と3年後の新たなフレイル発症との関連	2023年 11月11～12日 大阪
葛谷 雅文	第10回日本サルコペニア・フレイル学会大会	地域在住高齢者におけるICT/IoTを用いたフレイル予防のための複合的健康増進プログラムによる身体機能、口腔機能への影響	2023年11月4・5日 東京
葛谷 雅文	第45回日本高血圧学会総会	高齢者高血圧では握力の変化と認知機能の変化が関連する	2023年 9月15日～17日 大阪
葛谷 雅文	第5回日本再生医療とリハビリテーション学会学術大会	サルコペニアモデル動物を用いた臍帯由来間葉系細胞及び運動療法による治療効果の検証	2023年9月30日 山口

葛谷 雅文	第65回日本老年医学会学術集会	介護老人保健施設における新型コロナワクチン接種後の健康状態に関するアンケート調査	2023年 6月16～18日 横浜
葛谷 雅文	第65回日本老年医学会学術集会	新型コロナウイルス感染症流行下における老年医学会会員医師の感染症診療に関する調査	2023年 6月16～18日 横浜
葛谷 雅文	第65回日本老年医学会学術集会	新型コロナウイルス感染症流行下における老年医学会会員医師の診療経験に関する調査	2023年 6月16～18日 横浜
葛谷 雅文	第65回日本老年医学会学術集会	新型コロナウイルス感染症流行下における老年医学会会員医師の心理的負担、労働機能障害に関する調査	2023年 6月16～18日 横浜
葛谷 雅文	第59回日本循環器病予防学会学術集会	高齢者高血圧における潜在的な認知機能変化に関連する因子の検討	2023年 6月3日～4日 鹿児島
木村 政紀	第103回中部地区老年医学談話会	下肢多発骨折を保存的に加療し、環境調整により在宅復帰できた92歳女性の一例	2024年2月10日 名古屋
畑山 朋美	日本老年医学会東海地方会	抗認知症薬内服を契機に食欲不振が出現し、薬剤性高カルシウム血症、低カリウム血症を発症した高齢女性の一例	2023年10月21日 名古屋大学医学部講堂
前田 恵子	第67回日本糖尿病学会年次学術集会	2型糖尿病患者におけるSGLT2阻害薬ルセオグリフロジンの有効性と動脈硬化、腎機能への影響（第３報）	2024年5月18日 東京

消化器内科

氏　名	学　会　名	演題・発表名	会期・開催地
山本 佳奈	日本消化器病学会東海支部第138回例会	膵体部癌で化学療法中に発症した胃壁内気腫症の一例	2023年6月17日 名古屋
山本 佳奈	第601回東海胃腸疾患研究会	症例提示「胃リンパ上皮癌」	2023年7月21日 名古屋
濱崎 元伸	第601回東海胃腸疾患研究会	読影「大腸MiNENs」	2023年7月21日 名古屋
西尾 雄司	名古屋西部クローン病研究会	「クローン病における経口JAK阻害剤リンヴォックについて」座長	2023年9月29日 Web
西尾 雄司	名古屋西部IBD治療ミーティング	「膠原病疾患における消化器症状とマネジメント」座長	2023年10月13日 名古屋
市川 毅留	日本内科学会第251回東海地方会	胆管付属腺由来の肝門部肝嚢胞により胆管圧排と胆管炎を来した1例	2023年10月15日 名古屋
田中 悠	西区学術講演会	潰瘍性大腸炎の診断，治療の実際と最新の知見	2023年11月30日 名古屋
山本 佳奈	“どうする？UC” Expert Seminar in TOKAI	「潰瘍性大腸炎の治療戦略～ミリキズマブの期待～」座長	2024年3月15日 名古屋

脳神経内科

氏　名	学　会　名	演題・発表名	会期・開催地
柵木 愛子	第251回日本内科学会東海地方会	両下腿筋炎を呈したANCA関連血管炎の1例	2023年10月15日 名古屋
近藤 隼人	第168回日本神経学会東海北陸地方会	認知機能低下で発症した特発性進行性多層性白質脳症(PML)の一例	2024年3月14日 名古屋
満間 典雅	第64回日本神経学会学術大会	Collaboration with local institutions for proper follow up of abused patients in out patient ward.	2023年6月2日 幕張

内分泌・代謝内科

氏　名	学　会　名	演題・発表名	会期・開催地
井上 沙織	第97回日本糖尿病学会中部地方会	他のSGLT2阻害薬からトホグリフロジンへ変更例での夜間排尿回数に関する検討	2023年9月23～24日 名古屋
森 一晃	第96回日本内分泌学会学術総会	多発転移を伴う悪性褐色細胞腫が疑われた1剖検例	2023年6月1～3日 名古屋
森 一晃	第97回日本糖尿病学会中部地方会	2型糖尿病患者における経口セマグルチドの有効性・安全性の検討	2023年9月23～24日 名古屋

外科・消化器外科

氏　名	学　会　名	演題・発表名	会期・開催地
景山 創	第78回日本消化器外科学会総会	閉塞性大腸癌に対する大腸ステントの有用性の検討	2023年7月14日 函館
景山 創	第60回愛知臨床外科学会	当院で経験した十二指腸乳頭部Gangliocystic paragangliomaの症例	2023年7月17日 愛知
中村 俊介	第96回日本胃癌学会総会	病理学的特徴を契機にLynch症候群関連腫瘍と診断した残胃癌の一例	2024年3月1日 京都
中村 俊介			
中山 裕史			
菱田 光洋 中山 裕史			

整形外科

氏　名	学　会　名	演題・発表名	会期・開催地
土屋 篤志	第33回日本整形外科超音波学会（シンポジウム）	肩関節鏡手術直前のエコーと関節鏡画像の比較	2023年 7月8～9日 東京
土屋 篤志	第141回中部日本整形外科災害外科学会学術集会（シンポジウム）	肩肘のスポーツ傷害に対するエコー診療	2023年 10月6～7日 神戸
土屋 篤志	第50回日本肩関節学会	オーバーヘッドアスリート利き手側の外傷性肩不安定症に対する鏡視下手術	2023年 10月13～14日 東京
土屋 篤志	第29回東海関節鏡研究会	二次性肩関節拘縮に対する関節鏡下関節授動術	2024年 1月20日 名古屋

長谷川 一行	日本スポーツ整形外科学会2023	骨端線閉鎖前の脛骨PCL付着部裂離骨折に対してknotless anchorを用いて内固定した1例	2023年 6月29日 広島

泌尿器科

氏　名	学　会　名	演題・発表名	会期・開催地
荒木 英盛	第16回日本骨盤臓器脱手術学会	治療に難渋したTVM手術後膀胱内メッシュの1例	2024年 3月25日 大阪
荒木 英盛	第25回日本女性骨盤定医学会	腹腔鏡下膣仙骨固定術（LSC）における後壁メッシュの是非の検討	2023年 8月5日 東京
荒木 英盛	第30回排尿機能学会	テンションフリーの岬角固定は腹腔鏡下仙骨腟固定術（LSC）後の腹圧性尿失禁悪化を防ぐか	2023年 9月7日 千葉
花田 いずみ	第73回日本泌尿器科学会中部総会	当院におけるMRI-超音波融合画像前立腺生検で診断を得た前立腺全摘標本の検討	2023年 10月14日 奈良
鴛渕 仁俊	第293回日本泌尿器科学会東海地方会	ロボット支援腹腔鏡下左腎部分切除術時に用いたHem-o-lokクリップが尿路に迷入した1例	2023年 6月8日 名古屋
鴛渕 仁俊	第294回日本泌尿器科学会東海地方会	肝硬変を伴わない回腸導管ストーマ静脈瘤の1例	2023年 9月9日 名古屋
角田 夕紀子	第73回日本泌尿器科学会中部総会	当院におけるRARP単独療法の治療成績	2023年 10月14日 奈良
花井 一旭	第73回日本泌尿器科学会中部総会	当院における完全腹腔鏡下腎尿管全摘除術を行った治療成績の検討	2023年 10月14日 奈良

耳鼻咽喉科・中耳サージセンター

氏　名	学　会　名	演題・発表名	会期・開催地
植田 広海	第67回日本聴覚医学会	（座長）	2023年 10月12～13日 千葉
植田 広海	第32回日本耳科学会	（座長）	2023年 11月2～4日 群馬

麻酔科・中央手術部

氏　名	学　会　名	演題・発表名	会期・開催地
橋本 篤	日本区域麻酔学会 第10回学術集会	教育講演　体幹の末梢神経ブロック	2023年 4月14・15日 大阪
橋本 篤	日本区域麻酔検定試験	試験問題作成委員・試験監督	2023年 4月16日 大阪
橋本 篤	日本麻酔科学会東海北陸支部　第21回学術集会	筋電図式筋弛緩モニタを電気メスのノイズ影響下で上図に使用する方法	2023年 9月9日 浜松
布目 雅博	第9回日本NP学会学術集会	診療看護師（NP)による指示簿を用いた術中麻酔管理	2023年 10月20～22日 札幌
橋本 篤	日本臨床麻酔学会 第43回大会	ハンズオンセミナーコーディネーター	2023年 12月7～9日 宮崎

橋本 篤	18th World Congress of Anaesthesiologists	How to successfully use electromyography-based neuromuscular monitor under the influence of electrocautery noise	2024年 3月2〜5日 シンガポール
布目 雅博	第5回日本周麻酔期看護医学会学術集会	当院における術後疼痛管理チームの活動と課題	2024年 3月23日 東京

放射線科

氏　名	学　会　名	演題・発表名	会期・開催地
奥村 有紗	第48回日本超音波検査学会学術集会	腹部超音波検査を契機に指摘されたIPMAの一例	2023年 6月10〜11日 大阪
今泉 延	第39回日本診療放射線技師学術集会	チーム医療における内視鏡センターでの診療放射線技師の役割	2023年 9月29〜10月1日 熊本
土本 博文	第39回日本診療放射線技師学術集会	診療放射線技師による静脈路確保の臨床運用報告	2023年 9月29〜10月1日 熊本
桂川 義貴	第15回中部放射線医療技術学会	静脈路確保の経験年数と成功率に関する検討	2023年 11月25〜26日 福井
富田 羊一	第15回中部放射線医療技術学会	反復性肩関節脱臼術後の肩関節CTにおける画質評価	2023年 11月25〜26日 福井

中央臨床検査部

氏　名	学　会　名	演題・発表名	会期・開催地
小林 徳子	第64回日本臨床細胞学会総会（春期大会）	上部尿路上皮癌診断におけるセルブロック標本作製の有用性について（P-2-66）	2023年6月9〜11日 名古屋

薬剤部

氏　名	学　会　名	演題・発表名	会期・開催地
柘植 友考	第16回緩和医療薬学会年会	当院における5FU注による肝性脳症発症の3症例から学んだこと	2023年5月27日 神戸
藤本 真規子	日本臨床腫瘍薬学会学術大会2024	エンホルツマブペドチン療法の有害事象に対する薬学的介入	2024年3月3日 神戸
冨田 優子	日本薬学会第144年会	当院における二次骨折予防に対する骨粗鬆症治療の現状と薬剤部の役割	2024年3月30日 横浜

看護部

氏　名	学　会　名	演題・発表名	会期・開催地
小野 裕輝	第16回日本摂食嚥下障害看護研究会	（座長）	2023年11月18日 名古屋
澤野 麻子 共同研究者	臨床腫瘍薬学会	エンホルツマブベドチン療法の有害事象に対する薬学的介入（藤本薬剤師が発表）	2024年3月2日 神戸
高橋 須磨子	第17回日本医療マネジメント学会 愛知県支部学術集会	（座長）	2023年12月16日 名古屋
祖父江 美紀	栄生塾糖尿病トータルケアサポートWebSeminar〜糖尿病性神経障害編〜	フットケアの概要と足病変の予防ケア	2023年11月8日 名古屋

坪井 麻衣子	栄生塾糖尿病性腎症診療Webセミナー	当院の腎症重症化予防に向けた看護指導の実際	2023年4月12日 web
坪井 麻衣子	かかりつけ医のための糖尿病セミナーin名古屋	腎症重症化予防に向けた患者指導	2023年11月16日 名古屋
二村 舞子 共同演者	第144回東海産科婦人科学会	右肺転移巣の摘出と左腎摘出を経て完治した子宮平滑筋肉腫症例の臨床的特徴	2023年3月9日 名古屋

栄養サポート室

氏　名	学　会　名	演題・発表名	会期・開催地
鈴木 真希子	第34回東海糖尿病治療研究会 糖尿病教育担当者セミナー	糖尿病イベント参加者及び入院患者の食物繊維の調査	2023年9月3日 名古屋
秋田 碧泉	名古屋西部医療連携講演会	脂質異常症　動脈硬化予防を視野に入れた栄養管理	2023年10月28日 名古屋
濱嵜 未来	愛知NST研究会	COVID-19罹患後に食事摂取量が低下したが、NST介入により経口摂取可能となった1例	2023年11月11日 名古屋
北林 由布子	日本病態栄養学会 第27回年次学術集会	給食業務完全委託後の嗜好調査結果と臨床栄養管理業務の実績について	2024年1月27日 京都

学会参加

内分泌・代謝内科

氏　名	学　会　名	会期・開催地
井上 沙織	第66回日本甲状腺学会学術集会	2023年12月7～9日 金沢
井上 沙織	第66回日本糖尿病学会年次学術集会	2023年5月11～13日 Web
神谷 高志	第66回日本糖尿病学会年次学術集会	2023年5月11～13日 Web
神谷 高志	第58回糖尿病学の進歩	2024年2月16～17日 Web
安田 寛子	第66回日本糖尿病学会年次学術集会	2023年5月11～13日 Web
安田 寛子	第96回日本内分泌学会学術総会	2023年6月1～3日 Web
安田 寛子	第33回臨床内分泌代謝Update	2023年11月3～4日 Web
安田 寛子	第97回日本糖尿病学会中部地方会	2023年9月23～24日 名古屋

脳神経外科

氏　名	学　会　名	会期・開催地
竹内 洋太郎	日本脳脳卒中学会	2023年3月7～9日 Web

栄養サポート室

氏　名	学　会　名	会期・開催地
北林 由布子・濱嵜 未来	JSPEN　第38回日本臨床栄養代謝学会学術集会	2023年5月 web
北林 由布子・鈴木 真希子	日本糖尿病学会　第66回日本糖尿病学会年次学術集会	2023年5月 web
鈴木 真希子	日本病態栄養学会　教育セミナー受験者用	2023年6月 web
秋田 碧泉	CDEJ（日本糖尿病療養指導士）第24回受験者用講習会	2023年8月 web
北林 由布子・秋田 碧泉	JSPEN　中部支部第17回支部学術集会	2023年7月29日 名古屋
北林 由布子・平野 千江子・濵﨑 未来・小林 可奈・伊藤 昌代・伊藤 優香	第34回東海糖尿病治療研究会糖尿病教育担当者セミナー	2023年9月3日 名古屋
秋田 碧泉・伊藤 優香	2023年度栄養サポートチーム担当者研修会	2023年9月 web
平野 千江子	日本小児アレルギー学会	2023年11月 web
秋田 碧泉	第10回名古屋医療センター・放射線化学療法の推進に関する研修会	2023年11月11日 名古屋
平野 千江子・伊藤 昌代・秋田 碧泉・伊藤 優香	第35回愛知NST研究会	2023年11月11日 名古屋
小林 可奈・鈴木 真希子	日本病態栄養学会　第27回年次学術集会	2024年1月 web
北林 由布子・濵﨑 未来	JSPEN　第39回日本臨床栄養代謝学会学術集会	2024年2月 web

認知症疾患医療センター

氏　名	学　会　名	会期・開催地
宮尾 眞一	老年医学学会	

研修会・勉強会開催

老年内科

氏　名	研修会・勉強会名／演題・発表名	会期・開催地
葛谷 雅文	第44回世界健康フォーラム 2023　パネルディスカッション 「生涯自立して暮らせる生活習慣を身につけよう－食と体、心の健康づくり－」	2023年11月28日 名古屋
葛谷 雅文	たんぽぽ薬局　社内講演会 「健康長寿とフレイル・サルコペニア対策」	2023年11月19日 岐阜
葛谷 雅文	令和５年度 人生の最終段階における医療・ケア普及啓発事業（県委託事業）　ＡＣＰ普及のための医療・介護専門職向け基礎研修 「地域包括ケアにおけるＡＣＰと専門職への期待　～より早期からのＡＣＰと記録の重要性～」	2023年11月5日 静岡県
葛谷 雅文	Heart Disease Forum in 尾張 「脂質管理の今後－FHの診断・治療を含めて」	2023年11月5日 名古屋
葛谷 雅文	第25回ダノン健康栄養フォーラム〈健康寿命延伸におけるフレイル対策の重要性〉　「社会的要因とフレイル」	2023年9月23日 東京
葛谷 雅文	第2回NPO地域共生を支える医療・介護・市民全国ネットワーク 全国の集い in 名古屋2023　スポンサードセミナー（ツムラ） 「高齢者医療と漢方薬」	2023年9月17日 名古屋
葛谷 雅文	認知症地域医療セミナー講演（ベネッセ） 「認知症を知って予防しよう」	2023年 9月16日、10月7日 名古屋
葛谷 雅文	南高医師会（長崎）学術講演会（ツムラ） 「高齢者医療に置ける漢方の位置づけ」	2023年9月7日 web
葛谷 雅文	北区医師会web講演会（興和） 「動脈硬化疾患の予防戦略―高TG血症の位置づけ―」	2023年6月21日 名古屋
大村 朋美	令和5年度愛知県糖尿病性腎症重症化予防研修 「生活習慣病とフレイルの関係」	2023年11月24日～ 2024年1月12日 Web
前田 惠子	令和5年度愛知学院大学歯学部同窓会PGC 栄養について学びませんか／シンポジウム〈歯科で栄養を考える〉 「病態と栄養アセスメント」	2024年1月21日 愛知
前田 惠子	令和5年度心理百合会（日本臨床心理士資格認定協会研修会） 「すい臓がん末期を自宅で過ごし、希望通り息子さんに看取られた症例」	2024年2月10日 名古屋

循環器内科

氏　名	研修会・勉強会名／演題・発表名	会期・開催地
杉浦、市原、野田、石濱	第106回循環器症例カンファレンス	2023年9月2日 名鉄病院
杉浦、市原、石濱	第107回循環器症例カンファレンス	2023年11月4日 名鉄病院
杉浦、市原、野田、石濱	第108回循環器症例カンファレンス	2024年2月3日 名鉄病院
杉浦、市原	院内BLS講習会	2023年4月10日 名鉄病院
杉浦、市原	院内ICLS講習会	2023年5月13日 名鉄病院

杉浦、市原	院内ICLS講習会	2023年7月8日 名鉄病院
杉浦、市原	院内ICLS講習会	2023年10月14日 名鉄病院
杉浦、丹羽	院内ICLS講習会	2024年2月17日 名鉄病院

消化器内科

氏　名	研修会・勉強会名／演題・発表名	会期・開催地
西尾 雄司、竹田 欽一、大林 友彦 濱崎 元伸、山本 佳奈、市川 毅留、三島 茉莉	第64回西区・西名古屋消化器カンファレンス	2023年 10月7日 名鉄病院
西尾 雄司、竹田 欽一、大林 友彦 濱崎 元伸、山本 佳奈、市川 毅留、三島 茉莉	第65回西区・西名古屋消化器カンファレンス	2024年 3月9日 名鉄病院

脳神経内科

氏　名	研修会・勉強会名／演題・発表名	開催日・開催地
内田 圭	片頭痛診療Web Seminar（座長）	2023年4月27日 名古屋
内田 圭	パーキンソン病多職種連携Web講演会（座長）	2023年5月25日 名古屋
内田 圭	パーキンソン病Webセミナー 「高齢パーキンソン病患者の治療ポイント」	2023年6月8日 名古屋
内田 圭	プライマリケア医のためのパーキンソン病診療2023 「パーキンソン病の診断から早期治療へ」	2023年7月13日 安城
内田 圭	地域で診る脳卒中Webセミナー 「脳梗塞二次予防の取り組み」	2023年7月20日 名古屋
内田 圭	第2回　名古屋西部　神経疾患セミナー 「当院におけるNMO３症例の経過」	2023年8月3日 名古屋
内田 圭	Neuroscience Web Seminar（座長）	2023年9月27日 名古屋
内田 圭	第16回名古屋北西部脳・神経地域連携カンファレンス（座長）	2023年10月21日 名古屋
内田 圭	名古屋西部医療連携講演会 -動脈硬化GL改定後の脳心血管病克服を目指した治療のために- 「脳梗塞のリスクファクターとしての脂質管理」	2023年10月28日 名古屋
内田 圭	Aichi Safinameister's Conference 2023 in Autumn 「サフィナミド100mgに増量して改善した症例」	2023年11月7日 名古屋
内田 圭	かかりつけ医のための 頭痛診療WebSeminar（座長）	2023年12月6日 名古屋
内田 圭	かかりつけ医のための脳疾患・疼痛診療Web Seminar（座長）	2024年1月24日 名古屋
内田 圭	Neuroscience Web Seminar（座長）	2024年2月1日 名古屋
内田 圭	医療連携システム勉強会（中川区医師会） 「パーキンソン病を疑うポイント」	2024年2月10日 名古屋
内田 圭	西薬剤師会研修会 「ALSの診断から治療までの流れ」	2024年3月9日 名古屋
内田 圭	パーキンソン病Webセミナー 「パーキンソン病の振戦」	2024年3月21日 名古屋

宮尾 眞一	千種区認知症地域連携の会 「BPSDへの理解と対応」	2023年5月18日 名古屋
宮尾 眞一	みんなで考えるレビー小体型認知症 in 愛知西部 「認知症疾患医療センター（一般病院）におけるレビー 小体型認知症の臨床」	2023年8月25日 名古屋
宮尾 眞一	日本薬局学会講演 「認知症多職種連携の中で薬剤師に期待する役割 認知症疾患医療センターの立場から」	2023年10月8日 名古屋
宮尾 眞一	西知多総合病院　認知症ケア講演会 「一般急性期病院におけるせん妄とＢＰＳＤへの対応」	2023年11月22日 知多
宮尾 眞一	認知症フォーラム in 豊田加茂 「「どうする?」ＤＳＴによる認知症入院患者対応」	2024年1月31日 豊田
宮尾 眞一	中区医師会 「疾患修飾薬時代を迎えてアルツハイマー病対症療法薬を再考する アリドネパッチへの期待」	2024年3月28日 名古屋

整形外科

氏　名	研修会・勉強会名／演題・発表名	開催日・開催地
土屋 篤志	第49回中濃整形外科研修会 「肩関節疾患の保存的治療と関節鏡手術」	2023年9月14日 岐阜
土屋 篤志	第15回セラピスト資格継続研修会 「肩、肘疾患の治療とリハビリテーション」	2023年10月22日 名古屋

リハビリテーション科

氏　名	研修会・勉強会名／演題・発表名	開催日・開催地
山北 康介	四日市市日帰りリハビリテーション事業 ぜんそく教室	2023年11月8日 三重
山北 康介・黒田 光輔 中村 佑輔・桑原 翔人	名古屋市教育委員会　土曜学習プログラム 肺と呼吸の仕組み	2023年12月16日 名古屋
山北 康介・黒田 光輔	名古屋市教育委員会　土曜学習プログラム 肺と呼吸の仕組み	2024年1月20日 名古屋

脳神経外科

氏　名	研修会・勉強会名／演題・発表名	開催日・開催地
竹内 洋太郎	名古屋北西部脳神経カンファレンス	2023年10月21日 名古屋

麻酔科・中央手術部

氏　名	研修会・勉強会名／演題・発表名	会期・開催地
布目 雅博	新人看護職員研修会 「フィジカルアセスメント～呼吸器・脳神経～」	2023年8月4日 名古屋
橋本 篤	第1回三重県PNBセミナー 「講演　末梢神経ブロック15年間の振り返り ハンズオンセミナーインストラクター」	2023年10月28日 津
布目 雅博	名古屋市看護実務研修会 「看護につながるフィジカルアセスメント」	2023年11月17日 名古屋

救急部

氏　名	研修会・勉強会名／演題・発表名	開催日・開催地
救急部	合同症例検討会「救急隊との連携」	2023年7月 名鉄病院
救急部	合同症例検討会「救急隊との連携」	2024年2月 名鉄病院

輸血部

氏　名	研修会・勉強会名／演題・発表名	開催日・開催地
輸血療法委員会	2023年度第1回輸血講習会 「安全な輸血をめざして」	2023年8月3・4日 名鉄病院
輸血療法委員会	2023年度第2回輸血講習会 「安全な輸血をめざして」	2024年3月 グループウェア

中央臨床検査部

氏　名	研修会・勉強会名／演題・発表名	開催日・開催地
柳町 孔祐	一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会 支援活動 「令和6年能登半島地震に関する派遣」	2024年2月2～4日 石川

薬剤部

氏　名	研修会・勉強会名／演題・発表名	開催日・開催地
藤本 真規子	安全管理講習会 「薬剤部における抗がん剤の投与管理」	2023年5月12・18日 名鉄病院
川口 実希	名古屋西部医療連携講演会 ～動脈硬化GL改訂後の脳心血管病克服を目指した治療のために～ 「脂質管理・指導における薬剤師のかかわり」	2023年10月28日 名古屋
柘植 友考	第2回きらり通信 「癌疼痛に対する鎮痛薬の効果的な使いわけ」	2023年11月10日 名鉄病院
鈴木 優香	第35回愛知NST研究会 「当院の敗血症患者における脂肪乳剤投与の現状」	2023年11月11日 名古屋
藤本 真規子	西薬剤師会 研修会 「名鉄病院の外来がん化学療法における薬薬連携」	2023年12月9日 名古屋

看護部

氏　名	研修会・勉強会名／演題・発表名	開催日・開催地
二村 舞子	第2回きらり通信 「患者さんから痛いと言われたらどうする」	2023年11月10日 名鉄病院
附田 舞	小児アレルギー疾患事例対応会議 「気管支喘息対応」	2023年8月3日 愛知
附田 舞	愛知県看護協会 医療従事者による健康応援フェスタ COLORFUL彩 「これってどうなの？アレルギー？」	2023年9月24日 名古屋
附田 舞	大塚製薬 学習会 「アトピー性皮膚炎の患者指導症例」	2023年10月16日 大塚製薬
附田 舞	食物アレルギー対応 講義 「小児アレルギー緊急時対応」	2023年12月21日 愛知
附田 舞	小児アレルギー緊急時対応 職員研修 「小児アレルギー緊急時対応」	2024年3月11日 愛知

森 淳一	コロプラスト オンライン座談会 「地域密着型の2次救急総合病院におけるストーマケア」	2023年4月22日 web
森 淳一	名鉄病院セミナー 第1回キラリ通信 「どうする創傷ケア 最新のトピック～創傷衛生/wound hygiene～」	2023年4月28日 web
森 淳一	令和5年度新人訪問看護職員研修 「在宅におけるスキンケア」	2023年6月14日 愛知
森 淳一	訪問看護ステーションたけのこ 勉強会 「ストーマケア～在宅で困らないために～」	2023年6月19日 web
森 淳一	第36回東海ストーマリハビリテーション講習会 「演習及び総合討論ファシリテーター・実行委員」	2023年9月8日 愛知
森 淳一	第30回日本排尿機能学会 骨盤底筋トレーニングハンズオンセミナー 「演習インストラクター」	2023年9月9日 千葉
森 淳一	令和5年度新人訪問看護職員研修 「在宅におけるスキンケア」	2023年9月20日 愛知
森 淳一	愛知県JAET/WOC勉強会 「超音波を用いた骨盤底筋の評価～新たな知見M-modeとは～」	2023年10月14日 愛知
森 淳一	栄生塾糖尿病トータルケアサポートWeb Seminar ～糖尿病性神経障害編～　「DPN合併足病変の看護」	2023年12月20日 web
森 淳一	第19回日本褥瘡学会中部地方会学術集会 サテライトセミナー 「残尿測定器ハンズオンセミナー講師」	2024年3月16日 福井
森 淳一	コロプラスト セミナーin東海 泌尿器科領域のスキルアップを目指して 「どうする？排尿ケア ～導尿と骨盤底筋トレーニング～」	2024年3月23日 愛知

栄養サポート室

氏　名	研修会・勉強会名／演題・発表名	開催日・開催地
北林 由布子 濵埼 未来	第35回 愛知NST研究会 「COVID-19罹患後に食事摂取量が低下したが、NST介入により経口摂取可能となった1例」	2023年11月11日 名古屋

認知症疾患医療センター

氏　名	研修会・勉強会名／演題・発表名	開催日・開催地
宮尾 眞一	認知症家族支援事業 西区南部いきいき支援センター 「認知症について正しく理解する ①」	2023年5月24日 名古屋
宮尾 眞一	認知症家族支援事業 西区北部いきいき支援センター 「認知症について正しく理解する ②」	2023年5月25日 名古屋
宮尾 眞一	認知症家族支援事業 西区南部いきいき支援センター 「認知症について正しく理解する ①」	2023年11月22日 名古屋
宮尾 眞一	認知症家族支援事業 西区北部いきいき支援センター 「認知症について正しく理解する ②」	2023年11月30日 名古屋
宮尾 眞一	千種区内居宅介護支援専門員事業者向け研修会 「BPSDについてその要因を考える」	2023年6月15日 名古屋
宮尾 眞一	不眠症診療セミナー（製薬会社との共催） 「認知症診療の実践と認知症高齢者の不眠治療」	2023年9月12日 Web
高田 陵子	認知症WEBセミナー（製薬会社との共催） 認知症認定看護師の取り組み① 「認知症の人への個々の合わせた服薬管理の工夫」	2023年10月21日 名古屋

宮尾 眞一	認知症WEBセミナー（製薬会社との共催） 特別講演「これまでの認知症治療、これからの認知症治療 新たな選択肢 アリドネパッチへの期待」	2023年10月21日 名古屋
宮尾 眞一	西区介護支援専門員研修会ほっとタイム 「BPSDについて正しく理解しよう 認知症の人を介護する家族の声を聞こう」	2024年1月16日 名古屋
宮尾 眞一	認知症対応モデルフォローアップ研修会 「認知症の人の意思決定支援ガイドライン研修」	2023年12月10日 名古屋
宮尾 眞一	トピック選択講座 「認知症」	2023年12月5日 名古屋大学
宮尾 眞一	院内リンクナース部会（全9回） 「認知症・睡眠・病態・薬剤・せん妄・BPSD」	2023年5月29日、 6月26日、7月31日 8月28日、9月25日 10月23日、11月27日 12月25日 2024年1月22日 名鉄病院
宮尾 眞一 氣田 利ヱ子	認知症初期集中支援チーム員 南北交流会 「初期集中支援チーム対応の事例検討会」	2024年1月19日 名鉄病院
氣田 利ヱ子	認知症サポーターフォローアップ講座 「認知症疾患医療センターについて」	2023年12月4日 名古屋
氣田 利ヱ子	認知症サポーター養成講座 「認知症キャラバンメイト」	2024年1月25日 名古屋
髙田 陵子	愛知県看護協会 研修第1回 第2回 「病院勤務以外の看護師等認知症対応力向上研修」	2024年1月11日、2月1日 名古屋
認知症疾患医療 センター職員 宮尾 眞一	家族支援プログラム（全6回） 「①作ろうネットワーク　②学びましょう認知症のこと ③上手に使おうサービス利用　④みつめましょうあなたの心 ⑤寄りそってみましょう相手の心　⑥医師と上手に付き合おう」	2023年 7月1日、8月5日 9月2日、10月7日 11月4日、12月2日 名鉄病院
認知症疾患医療 センター	認知症介護者交流会　月1回 「認知症介護者家族の交流の場」	2023年6月3日、7月1日 8月5日、9月2日 10月7日、11月4日 12月2日 2024年1月6日、2月3日 3月2日 名鉄病院
認知症疾患医療 センター リハビリテーション科	名鉄病院運動教室/メビウス家族交流会 「認知症当事者への運動とその家族交流会」	2023年5月10日、6月7日 7月5日、8月5日 9月13日、10月11日 11月8日、12月6日 2024年1月10日、2月14日 3月13日、3月27日 名鉄病院

医療支援センター

氏　名	研修会・勉強会名／演題・発表名	開催日・開催地
市川 美代子	愛知県看護研修センター　スキンケア研修会 「スキンケア　褥瘡予防　ストーマケア」	2023年6月 愛知
市川 美代子	愛知県看護研修センター　スキンケア研修会 「スキンケア　褥瘡予防　ストーマケア」	2023年9月 愛知
市川 美代子	ユニチャームメンリッケヘルスケア 「IAD（失禁関連皮膚炎）のケア」	2023年6月 Web
市川 美代子	株式会社ホリスター　ダンサック　症例提示セミナー 「ストーマケアの症例提示」	2023年11月 Web

市川 美代子	訪問看護ステーションIROHANA　勉強会　ストーマケア 「ストーマケア勉強会」	2024年2月 愛知
市川 美代子	第1回　きらり通信 「在宅における褥瘡予防管理」	2023年4月 Web
市川 美代子	ストーマケア研修会in名古屋 「ストーマケア研修会」	2023年9月 名古屋
市川 美代子	ストーマケア研修会in大府 「ストーマケア研修会」	2023年12月 愛知

感染制御対策室

氏　名	研修会・勉強会名／演題・発表名	開催日・開催地
齋場 三季	第17回日本医療マネジメント学会愛知県支部学術集会 「新型コロナ対応の経験から組織の課題とマネジメントを考える」	2023年12月16日 名古屋

論文

老年内科

題名・著者	雑誌名・発行年・巻(号)・頁
● Investigating the perceptions of career development as the Japanese regional quota medical students and graduates in A prefecture. Suematsu M, Inoue R, Takahashi N, Miyazaki K, Okazaki K, Miyata Y, Ohashi W, Kuzuya M.	J Gen Fam Med. 2024 Mar 25;25(3):166-169.
● Drug-related sarcopenia as a secondary sarcopenia. Kuzuya M	Geriatr Gerontol Int. 2024 Feb;24(2):195-203.
● Impacts of "Diabetes Theater," a participative educational workshop for health care professionals, on participants: a patient empowerment perspective. Abe R, Okazaki K, Takahashi N, Suematsu M, Kuzuya M.	Diabetol Int. 2024 Jan 23;15(2):307-312.
● Survey on the health status within two weeks after mRNA vaccination for SARS-CoV-2 in geriatric health service facilities in Japan. Yamaguchi Y, Okochi J, Urano T, Ebihara T, Kadono T, Arai H, Iijima K, Ishii S, Kuzuya M, Rakugi H, Akishita M, Higashi K, Kozaki K.	Geriatr Gerontol Int. 2023 Nov;23(11):892-893.
● The association between early rehabilitation and ambulatory ability at discharge in patients with hip fractures at acute-phase rehabilitation wards: a survey of the Japan Association of Rehabilitation Database. Hattori K, Kamitani H, Suzuki Y, Shiraishi N, Hayashi T, Matsumoto D, Sugiyama M, Komiya H, Kuzuya M.	Nagoya J Med Sci. 2023 Aug;85(3):455-464.
● Cathepsin S activity controls chronic stress-induced muscle atrophy and dysfunction in mice. Wan Y, Piao L, Xu S, Meng X, Huang Z, Inoue A, Wang H, Yue X, Jin X, Nan Y, Shi GP, Murohara T, Umegaki H, Kuzuya M, Cheng XW.	Cell Mol Life Sci. 2023 Aug 17;80(9):254.
● Myonectin protects against skeletal muscle dysfunction in male mice through activation of AMPK/PGC1α pathway. Ozaki Y, Ohashi K, Otaka N, Kawanishi H, Takikawa T, Fang L, Takahara K, Tatsumi M, Ishihama S, Takefuji M, Kato K, Shimizu Y, Bando YK, Inoue A, Kuzuya M, Miura S, Murohara T, Ouchi N.	Nat Commun. 2023 Aug 4;14(1):4675.
● Cathepsin S deficiency improves muscle mass loss and dysfunction via the modulation of protein metabolism in mice under pathological stress conditions. Wan Y, Piao L, Xu S, Inoue A, Meng X, Lei Y, Huang Z, Wang H, Yue X, Shi GP, Kuzuya M, Cheng XW.	FASEB J. 2023 Aug;37(8):e23086.
● Effect of drugs on nutritional status and drug-nutrition interactions in older patients. Kuzuya M	Geriatr Gerontol Int. 2023 Jul;23(7):465-477.
● CTSS Modulates Stress-Related Carotid Artery Thrombosis in a Mouse FeCl3 Model. Xu S, Piao L, Wan Y, Huang Z, Meng X, Inoue A, Wang H, Yue X, Jin X, Shi GP, Kuzuya M, Cheng XW.	Arterioscler Thromb Vasc Biol. 2023 Jul;43(7):e238-e253.

題名・著者	雑誌名・発行年・巻(号)・頁
● Renal dysfunction, malignant neoplasms, atherosclerotic cardiovascular diseases, and sarcopenia as key outcomes observed in a three-year follow-up study using the Werner Syndrome Registry. Maeda Y, Kuzuya M, Yokote K, et al.	Aging (Albany NY). 2023 May 1;15(9):3273-3294
● Total pain in advanced dementia: a quick literature review. Hirakawa Y, Muraya T, Yamanaka T, Hirahara S, Okochi J, Kuzuya M, Miura H.	J Rural Med. 2023 Apr;18(2):154-158.
● Early-onset Alzheimer Disease Associated With Neuromyelitis Optica Spectrum Disorder. Fujisawa C, Saji N, Takeda A, Kato T, Nakamura A, Sakurai K, Asanomi Y, Ozaki K, Takada K, Umegaki H, Kuzuya M, Sakurai T.	Alzheimer Dis Assoc Disord. 2023 Jan-Mar 01;37(1):85-87.
● 認知症の人へのadvance care planning の現状とその役割.　ナラティブレビュー　日老医誌 60 (3): 201-213, 2023.7. 葛谷 雅文、平川 仁尚、会田 薫子、三浦 久幸	J Cachexia Sarcopenia Muscle. 2022 Apr;13(2):1197-1209.
● 【TOPICS(第27回) 】社会的脆弱(社会的フレイル)と高齢者の栄養 葛谷 雅文	食と医療27号　TOPICS Page076-079, (2023.10)
● 【ビタミン栄養学 UPDATE】フレイル・サルコペニアとビタミン 葛谷 雅文	臨床栄養 別冊 141 (1): 85-89, 2023.7
● 【内科医として知っておくべき栄養に関する最新の知識】 トピックスV サルコペニア・フレイルに対する栄養療法 葛谷 雅文	日本内科学会誌 112 (4): 642-647, 2023

内分泌・代謝内科

題名・著者	雑誌名・発行年・巻(号)・頁
● A Type 2 Diabetes Mellitus Patient With Severe Diabetic Gastroparesis Successfully Treated With Intravenous Erythromycin 井上 沙織	Cureus. 2023 Nov 19;15(11)
● A Diabetic Patient with Prolonged Hyperammonemia Due to Urinary Tract Infection Caused by Urease-producing Bacteria 井上 沙織	Intern Med. 2023 Nov 6.

小児科

題名・著者	雑誌名・発行年・巻(号)・頁
● 凍瘡を契機に大腿内転筋炎・脛骨骨髄炎を発症した11歳男性 稗田 芙蓉太、鈴木 このみ、鈴村 水鳥、関屋 由子、渡邉 修大	小児科64巻5号 pp.531-535(2023年05月)
● 結石性多発腎膿瘍を発症したシスチン尿症の乳児例 稗田 芙蓉太、鈴木 このみ、鈴村 水鳥、関屋 由子、渡邉 修大	小児科65巻3号 pp.209-210(2024年03月)
● 漢方薬を用いた心身症の治療 鈴村 水鳥	小児内科55巻6号 pp.953-957(2023年06月)

外科・消化器外科

題名・著者	雑誌名・発行年・巻(号)・頁
● High-risk Features for Recurrence in Patients With Stage III Colorectal Cancer: A Retrospective Cohort Study 中村 俊介	Anticancer Res. 2024 Feb;44(2)757-766

整形外科

題名・著者	雑誌名・発行年・巻(号)・頁
● Plantar flexion with inversion shows highest elastic modulus of calaneofibular ligament using ultrasound share wave elastography. Takaba K, Takenaga T, Tsuchiya A, Takeuchi S, Fukuyoshi M, Nakagawa H, Matsumoto Y, Saito M, Futamura H, Sugimoto K, Murakami H, Yoshida M	J Ultrasound.2023 Dec 26;(4):765-770
● 肘関節鏡手術におけるnanoscopeの有用性 武長徹也、吉田雅人、土屋篤志、岡本英貴、後藤英之、杉本勝正	日本肘関節学会雑誌・2023年・30巻（2号）・418－422
● 鏡視下Bankart-Bristow変法における大胸筋ポータルと前下方ポータルのガイドピン刺入角度の検討 山内翔、武長徹也、土屋篤志、竹内聡志、井上淳平、大久保徳雄、植田晋太郎、大野智也、村上英樹、吉田雅人	肩関節・2023年・47巻（1号）・54－57

耳鼻咽喉科、中耳サージセンター

題名・著者	雑誌名・発行年・巻(号)・頁
● 特別企画「伝承したい私の極意・技」耳内法によるアブミ骨手術 植田 広海	Otol Jpn 33:151-153,2023
● マレウスアタッチメントを使用し聴力改善しえた外リンパ瘻を伴う外傷性アブミ骨転位症例 小川 高生他	Otol Jpn 33:191-196,2023

看護部

題名・著者	雑誌名・発行年・巻(号)・頁
● 看護管理者の指導力を高める支援の分析ー看護師長と主任看護師の語りを通してー 高倉 千ほみ	日本福祉大学大学院 医療・福祉マネジメント研究科 修士論文集

著書

薬剤部

題名・著者	雑誌名・発行年・巻(号)・頁
● インスリン注射を使いたくないという患者　武藤 達也	糖尿病ケア+・2024・21 (1) ・73-75
● 糖尿病患者に用いるスケール　M値, SD, MAGE, TIR　武藤 達也・鈴木 さとみ	月刊薬事・2024・66 (1) ・51-55

表彰

中央臨床検査部

氏　名	表　　彰	年月日
鷹松 佳穂	日本糖尿病療養指導士　認定	2023年5月17日
小川 美玲	二級臨床検査士（病理学）　認定	2023年10月13日
池戸 政博	臨床臨床微生物検査技師　認定	2024年1月1日
池戸 政博	感染制御認定臨床微生物検査技師（ICMT）　認定	2024年1月1日

薬剤部

氏　名	表　　彰	年月日
鈴木 優香	Aichi Nst Award	2023年11月

栄養サポート室

氏　名	表　　彰	年月日
北林 由布子	CDEJ（日本糖尿病療養指導士）永年表彰（20年）	2024年4月1日
北林 由布子	JSPEN　栄養治療専門療法士　周術期・救急集中治療専門療法士認定	2024年2月14日
小林 可奈	日本病態栄養学会　病態栄養専門管理栄養士認定	2024年2月20日

名鉄病院　2023年度年報

2024年10月1日発行

発　　行　名鉄病院

発行責任者　葛谷 雅文

編　　集　名鉄病院 事務部

印　　刷　愛知印刷株式会社

名鉄病院

MEITETSU HOSPITAL